

第一號	廿二年七月廿七日	勳章記章佩用心得	三	八十〇
第二號	廿二年七月廿二日	略章略經佩用心得	三	八十三
○內務省令ノ部				
第四號	廿一年八月十一日	市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼方	二	七十一
第一號	廿一年一月廿四日	公益ノ爲メ人民ノ設立セシ學校病院ノ外各府縣公共財産ニシテ府縣會議町村會及水理七功會ノ規定ニ付セシ者管理方	四	八十五
○內務省訓令ノ部				
第十九號	廿一年九月廿九日	集治監囚徒費用金額編入方	七	九十五
第廿號	廿一年九月九日	內務報告例	廿一	三百四十一
第廿一號	廿一年十月十二日	警察賞與規則	六	九十〇
第廿二號	廿一年十月十六日	在監人ニ給與スル工錢ハ府縣會ノ議決ヲ經テ監獄費額ニ編入	七	九十五
第廿六號	廿一年十月十四日	監獄内建物ノ新築ニシテ稟請セシ處分後報告スヘキ種類ヲ定ム	七	九十五
第廿七號	廿一年十一月一日	民有橋梁渡津及道路等制用者用ノ電報配達人印鑑携帶ノ節ハ稟請スルヲ得ス	五	八十五
第一號	廿一年十一月十一日	看守押丁ノ特別功勞アル者賞與方	七	九十六
第三號	廿一年十一月廿六日	兵庫假留監聯合地方中奈良香川縣追加	七	九十六
○內務省告示ノ部				
第一號	廿二年二月二日	市制施行地方指定	二	七十四
○大藏省令ノ部				
第十四號	廿一年十一月十四日	諸公債證書取扱方改定	十二	百〇〇三
第十五號	廿一年十一月十四日	起業公債證書條例中削除及取扱方改定	十二	百〇〇四
第二號	廿一年十一月廿六日	造幣規則中改正	十二	百〇〇六
○大藏省訓令ノ部				
第四十一號	廿一年十一月十一日	他管總歲入納付金下戻ニ係ル支拂切符及同案内書ニ主管ノ印ヲ捺シム	十二	百〇〇八
第四十二號	廿一年十一月五日	租稅計算整理順序中更改追加	十二	百〇〇八
第四十三號	廿一年十一月五日	地租延期年賦額異動報告區分及送付日期	十二	百〇〇九
第四十六號	廿一年十一月廿四日	登記印紙受拂計算表	十六	三百二十五
第四十七號	廿一年十二月四日	私立銀行及會社ノ諸證書ニ役印押用ヲ得	十六	三百二十六
第一號	廿一年一月二日	人民所持ノ印紙賣買方訓令中改正	十二	百〇十二
第三號	廿二年二月八日	文具代價支給方	廿一	四百〇十四
○大藏省告示ノ部				
第三百三十八號	廿一年十月三十日	登記印紙七種見本	十六	三百二十四
第三百六十五號	廿一年十二月廿六日	紛失消滅ニ係ル諸公債証書及利札取扱方	十二	百〇〇四
○陸軍省達ノ部				
第二百四號	廿一年十一月二日	陸軍法罪法執行規則ヲ定メ罪犯取扱手續並書式廢止	十三	百五十三
第二百九號	廿一年十一月十五日	陸軍處務細則改正	十三	百六十五

第十四號	廿一年十一月十四日	諸公債證書取扱方改定	十二	百〇〇三
第十五號	廿一年十一月十四日	起業公債證書條例中削除及取扱方改定	十二	百〇〇四
第二號	廿一年十一月廿六日	造幣規則中改正	十二	百〇〇六
○大藏省訓令ノ部				
第四十一號	廿一年十一月十一日	他管總歲入納付金下戻ニ係ル支拂切符及同案内書ニ主管ノ印ヲ捺シム	十二	百〇〇八
第四十二號	廿一年十一月五日	租稅計算整理順序中更改追加	十二	百〇〇八
第四十三號	廿一年十一月五日	地租延期年賦額異動報告區分及送付日期	十二	百〇〇九
第四十六號	廿一年十一月廿四日	登記印紙受拂計算表	十六	三百二十五
第四十七號	廿一年十二月四日	私立銀行及會社ノ諸證書ニ役印押用ヲ得	十六	三百二十六
第一號	廿一年一月二日	人民所持ノ印紙賣買方訓令中改正	十二	百〇十二
第三號	廿二年二月八日	文具代價支給方	廿一	四百〇十四
○大藏省告示ノ部				
第三百三十八號	廿一年十月三十日	登記印紙七種見本	十六	三百二十四
第三百六十五號	廿一年十二月廿六日	紛失消滅ニ係ル諸公債証書及利札取扱方	十二	百〇〇四
○陸軍省達ノ部				
第二百四號	廿一年十一月二日	陸軍法罪法執行規則ヲ定メ罪犯取扱手續並書式廢止	十三	百五十三
第二百九號	廿一年十一月十五日	陸軍處務細則改正	十三	百六十五

第二百十二號	十一月十六日	師團司令部本部服務規則	十三	百七十二
第二百卅八號	十二月十五日	陸軍兵籍規則	十三	百八十四
第二百四十七號	十二月廿八日	師團戰時整備假規則	十三	百七十四
第三號	十一月十六日	所管長官限處分ノ上送付スヘキモノ並其係備後傷ニ編入ノモノ取扱方	十三	百八十六
○海軍省達ノ部				
第百五號	十月九日	鎮守府備兵規則	十三	二百〇十三
○司法省令ノ部				
第十五號	十月三十日	親族ノ保管ニ係ル失踪死亡跡遺留財産ノ賣却交換若クハ貸入書入ニ關スル通知請求書提出方	十六	三百二十四
第十六號	十一月五日	歳出支拂切符交換ノ場合ニ於テ其切符取消及再發ノ分編入方	十二	百〇〇九
第十七號	十二月七日	失踪逃亡者ノ遺留財産處分方	十七	三百三十一
第十九號	十一月二日	登記事務ノ土地ノ情況ニ依リ十二月三十一日迄ニ取扱ハシム	十六	三百二十六
○司法省告示ノ部				
第廿五號	十二月十二日	代官人出願書類進達方	十七	三百三十一
第廿五號	十二月十二日	代官出願人試驗執行	十七	三百三十一
○司法省丙號達ノ部				
丙第十一號	十二月十二日	違警罪即決事件表式並書例	十九	三百三十二
○文部省訓令ノ部				
第二號	九月十五日	尋常師範學校々長教員幹事舍監着服	十四	二百〇十六
第三號	九月十九日	小學校教科用圖書採定方法中改正追加	十四	二百〇十七
○文部省告示ノ部				
第十一號	十二月十三日	高等中學校設置區域第三區追加	十四	二百〇十七
○農商務省令ノ部				
第一號	十一月四日	特許條例施行細則	十五	二百四十〇
第二號	十一月四日	意匠條例施行細則	十五	二百七十八
第三號	十一月四日	商標條例施行細則	十五	三百〇〇五
○農商務省訓令ノ部				
第六號	十一月二十九日	森林收入返納貸金整理順序	十二	百〇十一
○農商務省告示ノ部				
第一號	十一月四日	特許、意匠、商標、例ニ依リ特許發明ノ明細書、特許及商標公報ノ附下代價並書類等本國並外國ノ手続料及請求手續	十五	三百二十〇
○遞信省令ノ部				
第四號	十一月廿四日	鐵道所屬電信電話線公眾通信取扱細則	十五	三百二十二
○遞信省訓令ノ部				
第十號	十月三十一日	航路標識ヲ設置變更廢止ニ係ル具申及報告方	十五	二百三十二

明治類典附錄累年目錄終				
累年目錄 ○司法省 ○文部省 ○農商務省 ○遞信省				
七				

第十三類	軍事	四
第十四類	教育	五
第十五類	勸業	同
第十六類	契約	六
第十七類	訴訟	七
第十八類	刑法	同
第十九類	治罪法	同
第二十類	罰則	同
第廿一類	雜	八

二
四
五
六
七
同
同
同
同
同
同
八
丁
丁
丁
丁
丁
丁
丁
丁

明治類典附錄目次

○大日本帝國憲法	一	丁
○議院法	十一	丁
○衆議院議員撰舉法及附錄	二十五	丁
○會計法	六十	丁
○貴族院令	六十八	丁
第一類 上書建白請願公文式	七十一	丁
○奈良香川二縣官報到達日數	七十一	丁
○官報定價改定	七十一	丁
第二類 市制及町村制附理由	七十一	丁
○市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼方	七十四	丁
○市制施行地方指定	七十四	丁
○町村制ヲ施行セサル島嶼	七十五	丁
○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費	七十六	丁
○東京市區改正土地建物處分規則	七十七	丁

第三類 褒章勳位恩給救助

- 勳章佩用式 七十九丁
- 勳章記章佩用心得 八十丁
- 略章略綬佩用心得 八十三丁

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

- 公益ノ爲メ人民ノ設立セル學校病院ノ外各府縣公共財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノ管理方 八十五丁

第五類 地所建物並道路橋梁

- 民有橋梁渡津及道路等制服着用ノ電報配達人印鑑携帶ノ節ハ貸錢請求スルヲ得ス 八十五丁

第六類 警察及取締

- 皇宮警察官禮式 八十六丁
- 警視廳官制中改正 八十九丁
- 警察賞與規則 九十丁
- 官吏公衆ニ對シ政事上學術上ノ意見ヲ演說又ハ叙述スルヲ得 九十四丁

第七類 監獄

- 集治監囚徒費用金額編入方 九十五丁
- 在監人ニ給與スル工錢ハ府縣會ノ議決ヲ經監獄費雜入ニ編入 九十五丁
- 監獄内建物ノ新築ニシテ京議セス處分後報告スヘキ種類ヲ定ム 九十五丁
- 看守押丁ノ特別功勞アル者賞與方 九十六丁
- 兵庫縣假留監聯合地方中奈良香川兩縣追加 九十六丁

第八類 戶籍

第九類 衛生

第十類 圖書

第十一類 社寺

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

- 整理公債條例 九十七丁
- 諸公債證書條例中改正削除及元金償還其他取扱手續等變更 百二丁
- 諸公債証書取扱方改正 百三丁
- 起業公債証書條例中削除及取扱方改正 百四丁

○紛失消滅ニ係ル諸公債証書及利札取扱方	百四丁
○鐵道費補充公債條例	百四丁
○貨幣條例中追加改正	百五丁
○造幣規則中改正	百六丁
○米商會所並株式取引所收稅規則第一條中改正	百六丁
○橫濱正金銀行條例中改正	百七丁
○他管廳歲入納付金下戻ニ係ル支拂切符及案内書ニ主管ノ印ヲ押捺セシム	百八丁
○租稅計算整理順序中更正追加	百八丁
○地租延期年賦額異動報告區分及送付日期	百九丁
○歲出支拂切符交換ノ場合ニ於テ其切符取消及再發ノ分編入方	百九丁
○外國ニ輸出スル物品海關稅免除	百十丁
○森林收入返納貸金整理順序	百十一丁
○人民所持ノ印紙賣買方訓令中改正	百十二丁
第十三類 軍事	
○徵兵令改正	百十八丁
○陸軍刑法中改正	百二十七丁

○陸軍治罪法改正	百二十八丁
○陸軍治罪法執行規則ヲ定メ罪犯取扱手續並書式廢止	百五十三丁
○陸軍省法官部官制	百六十四丁
○陸軍處務細則改正	百六十五丁
○師團司令部本部服務規則	百七十二丁
○師團戰時整備假規則	百七十四丁
○陸軍兵籍規則	百八十四丁
○所管長官限處分ノ上送付スヘキモノ並其豫備後備ニ編入ノモノ取扱方	百八十六丁
○海軍刑法中改正	百八十六丁
○海軍治罪法改正	百八十七丁
○鎮守府衛兵規則	百十三丁
第十四類 教育	
○尋常師範學校々長教員幹事舍監着服	二百十六丁
○小學校教科用圖書採定方法中改正追加	二百十七丁
○高等中學校設置區域第三區中追加	二百十七丁
第十五類 勸業	

- 度量衡取締條例 二百十八丁
- 航路標識條例 二百三十丁
- 航路標識ヲ設置變更廢停ニ係ル具申及報告方 二百三十二丁
- 特許條例 二百三十三丁
- 特許條例施行細則 二百四十丁
- 意匠條例 二百七十三丁
- 意匠條例施行細則 二百七十八丁
- 商標條例 三百一丁
- 商標條例施行細則 三百五丁
- 特許、意匠、商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許及商標公報ノ拂下代價並書類原本圖面調製ノ手数料及請求手續 三百二十丁
- 鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則 三百二十二丁
- 遞信省ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ電信電話手数料割合 三百二十一丁
- 鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱細則 三百二十二丁
- 登記印紙規則 三百二十三丁

第十六類 契約

- 親族保管ニ係ル失踪死亡跡遺留財産ノ賣却交換若クハ質入書入ニ關スル認許請求書差出方 三百二十四丁
- 登記印紙七種見本 三百二十四丁
- 登記印紙受拂計算表 三百二十五丁
- 登記事務ハ土地ノ情況ニ依リ十二月三十一日迄取扱ハシム 三百二十六丁
- 私立銀行及會社ノ諸証書ニ役印押用ヲ得 三百二十六丁

第十七類 訴訟

- 裁判所管轄區畫表改正 三百二十八丁
- 清國並朝鮮國駐在領事裁判規則 三百二十九丁
- 代官出願書類進達方 三百三十一丁
- 代官出願人試驗執行 三百三十一丁
- 失踪逃亡者ノ遺留財産處分方 三百三十一丁

第十八類 刑法

第十九類 治罪法

- 違警罪即決事件表並書例 三百三十二丁

第二十類 罰則

第二十一類 雜

- 地方官々等俸給令中改正
- 内務報告例
- 天象規則及曆書調製管理替
- 文官試験試補及見習規則中削除
- 技術官ハ事務繁簡ニ依リ俸給支給方
- 北海道廳郡區長任用
- 文具支給規則
- 文具代價支給方

三百三十九丁
 三百四十一丁
 四百十二丁
 四百十三丁
 四百十三丁
 四百十三丁
 四百十三丁
 四百十四丁

明治類典附錄目次終

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮
トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來
ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼
ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ是
レ我カ神聖ナル祖宗ノ遺徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇
武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國
史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ則チ祖宗
ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意
ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々
我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永

久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ
分ツニ堪フルユトヲ疑ハサルナリ

○大日本帝國憲法

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメム

十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タルモノモシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フ事ヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トナスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西鄉從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	伯爵森有禮
逓信大臣	伯爵板本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル
 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ

他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セ

ラレ及搜索セラル、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコト

ヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ

妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍

人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以

テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ撰舉法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコト

ヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各、其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ撰舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各、其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各、天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刑行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス
凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副書ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ
裁判所ノ構成ハ法ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルト
キハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別
ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理ス
ルノ限ニアラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及ヒ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及ヒ豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝
國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ
求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル
場合ヲ除ク外國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府
ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ
得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ
求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費
用ニ充ル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政
府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコ
トヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前
年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト
俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各、其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ理由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○ 議院法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各、本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黒田清陸
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

法律第貳號
議院法

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各一名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互撰スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ出席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ撰舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カ
ラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於
テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ撰舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ撰舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ撰舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數
以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ
議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ

議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政
府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三議會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人
以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ
三議會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得
ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ勸議ヲ發スルモ
ノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得
第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏
上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五
十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期

マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ
例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ
繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽
人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受

取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ
賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議
員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリ
トモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ
預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務
大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政
府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成者
アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ
 第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辨ヲ爲シ又ハ答辨
 スヘキ期日ヲ定メ若答辨ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ
 第五十條 國務大臣ノ答辨ヲ得又ハ答辨ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議
 ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見
 ナ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得
 各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議
 題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ
 依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院
 ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上
 スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
 乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ
 甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト
 同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘ
 シ
 甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ撰舉シ會同セシム委
 員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ
 之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス
 第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ
 意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス
 第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ
 議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互撰シ每會更代シ
 テ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘ
 シ

第十三章 請願

- 第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ
- 第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム
請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ
- 第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ
請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ
- 第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得
- 第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用フヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

- 第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス
- 第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス
- 第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係
- 第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス
- 第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス
- 第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ
- 第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス
- 第十五章 退職及議員資格ノ異議
- 第七十六條 衆議員ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス
- 第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ撰擧法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス
- 第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ
- 第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ヲキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議員ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六條 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス
第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕撰舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日

ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用キルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再撰ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ缺席スルニ由リ若ハ請假ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

○衆議院議員選舉法及附錄

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ撰舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

法律第三號
衆議院議員選舉法

衆議院議員選舉法

第一章 撰舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ撰舉區ニ於テ之ヲ撰舉セシム其ノ撰舉區及各撰舉區ニ於テ撰舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ撰舉區ノ撰舉ヲ監督ス

一撰舉區ノ撰舉ハ郡長又ハ市長其ノ撰舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一撰舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲシ撰舉長タラシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數撰舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ撰舉長タラシムヘシ

第五條 撰舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 撰舉人ノ資格

第六條 撰舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ム

ル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財産主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被撰人ノ資格

第八條 被撰人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計檢査官收稅官及警察官ハ被撰人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第十一條 撰舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ撰舉區ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被撰人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ撰舉セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 撰舉人及被撰人ニ通スル規定

衆議院議員選舉法

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ撰舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 撰舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉

管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上

告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取りタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一一定ノ式ヲ用キ選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長

ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由チ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由チ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得
第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被撰人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被撰人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ撰舉委員ノ意見ヲ聞キ撰舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被撰人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ撰舉明細書ヲ作り撰舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當撰人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當撰人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當撰人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當撰人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當撰人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數撰舉區ノ當撰人トナリタル者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ撰舉區ノ當撰ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當撰人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當撰人ニシテ其ノ當撰ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當撰ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命シ再ヒ撰舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當撰ヲ得タル者其ノ當撰ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當撰ヲ失ヒタル者ヲ以テ當撰人ト定ムヘシ

第六十五條 各撰舉區ノ當撰人確定シタルトキハ府縣知事ハ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當撰人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕撰舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍撰舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕撰舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ撰舉區ニ限リ臨時撰舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ撰舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 撰舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ従ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル、コトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル撰舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ撰舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ撰舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當撰訴訟

衆議院議員選舉法

第七十八條 各撰舉區ニ於テ當撰ヲ失ヒタル者當撰人ノ當撰ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當撰人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當撰人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當撰人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當撰訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當撰訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當撰訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當撰訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則
第八十九條 納稅額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑

止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 撰舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ
第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス
其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ愆クトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ
第十四章 補則

第六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

東京府 議員總數 十二人

- 第一區 麴町區、麻布區、赤坂區 一人
 - 第二區 芝區 一人
 - 第三區 京橋區 一人
 - 第四區 日本橋區 一人
 - 第五區 本所區、深川區 一人
 - 第六區 淺草區 一人
 - 第七區 神田區 一人
 - 第八區 下谷區、本郷區 一人
 - 第九區 小石川區、牛込區、四谷區 一人
 - 第十區 東多摩郡、南豐島郡、北豐島郡 一人
 - 第十一區 南足立郡、南葛飾郡 一人
 - 第十二區 荏原郡、伊豆七島 一人
- 京都府 議員總數 七人
- 第一區 上京區 一人
 - 第二區 下京區 一人

第三區 愛宕郡、葛野郡、乙訓郡、紀伊郡 一人
 第四區 宇治郡、久世郡、相樂郡、綴喜郡 一人
 第五區 南桑田郡、北桑田郡、船井郡、天田郡、何鹿郡 二人
 第六區 加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡 一人
 大坂府 議員總數 十八

第一區 西區 一人
 第二區 東區、北區 一人
 第三區 南區 一人
 第四區 西成郡、東成郡、住吉郡 二人
 第五區 島上郡、島下郡、豐島郡、能勢郡 一人
 第六區 茨田郡、交野郡、讚良郡、河內郡、若江郡、高安郡 一人
 第七區 石川郡、八上郡、古市郡、安宿部郡、錦部郡、丹南郡、志紀郡、丹北郡、大縣郡、澁川郡 一人
 第八區 堺區、大島郡、泉郡 一人
 第九區 南郡、日根郡 一人
 神奈川縣 議員總數 七人
 第一區 橫濱區 一人
 第二區 久良岐郡、橋樹郡、都筑郡 一人

第三區 南多摩郡、西多摩郡、北多摩郡 二人
 第四區 三浦郡、鎌倉郡 一人
 第五區 高座郡、愛甲郡、津久井郡 一人
 第六區 大住郡、洵綾郡、足柄上郡、足柄下郡 一人
 兵庫縣 議員總數 十二人
 第一區 神戸區 一人
 第二區 武庫郡、菟原郡、川邊郡、有馬郡 一人
 第三區 多紀郡、氷上郡 一人
 第四區 八部郡、明石郡、美嚢郡 一人
 第五區 加古郡、印南郡 一人
 第六區 加東郡、多可郡、加西郡 一人
 第七區 飾東郡、飾西郡、神東郡、神西郡 一人
 第八區 揖東郡、揖西郡、赤穂郡、佐用郡、宍粟郡 二人
 第九區 城崎郡、美含郡、氣多郡、出石郡、七美郡、二方郡、養父郡、朝來郡 二人
 第十區 津名郡、三原郡 一人
 長崎縣 議員總數 七人
 第一區 長崎區、西彼杵郡 二人
 第二區 東彼杵郡、北高來郡 一人

- 第三區 南高來郡 一人
- 第四區 北松浦郡、壹岐郡、石田郡 一人
- 第五區 南松浦郡 一人
- 第六區 土縣郡、下縣郡 一人
- 新潟縣 議員總數 十三人
- 第一區 新潟區、西蒲原郡 一人
- 第二區 北蒲原郡、東蒲原郡、巖船郡 二人
- 第三區 中蒲原郡 一人
- 第四區 南蒲原郡 一人
- 第五區 古志郡、三嶋郡 二人
- 第六區 刈羽郡 一人
- 第七區 北魚沼郡、南魚沼郡、中魚沼郡、東頸城郡 二人
- 第八區 中頸城郡、西頸城郡 二人
- 第九區 雜太郡、加茂郡、羽茂郡 一人
- 埼玉縣 議員總數 八人
- 第一區 北足立郡、新坐郡 一人
- 第二區 入間郡、高麗郡、橫見郡、比企郡 二人
- 第三區 南埼玉郡、北葛飾郡、中葛飾郡 二人

- 第四區 北埼玉郡、大里郡、幡羅郡、榛澤郡、男妾郡 二人
- 第五區 兒玉郡、賀美郡、郡珂郡、秩父郡 一人
- 群馬縣 議員總數 五人

- 第一區 東群馬郡、南勢多郡、利根郡、北勢多郡 一人
- 第二區 新田郡、山田郡、邑樂郡 一人
- 第三區 佐位郡、那波郡、綠野郡、多胡郡、南甘樂郡 一人
- 第四區 西群馬郡、片岡郡、吾妻郡 一人
- 第五區 北甘樂郡、碓氷郡 一人
- 千葉縣 議員總數 九人
- 第一區 千葉郡、市原郡 一人
- 第二區 東葛飾郡、印旛郡、下埴生郡、南相馬郡 二人
- 第三區 香取郡 一人
- 第四區 海上郡、匝埴郡 一人
- 第五區 山邊郡、武射郡 一人
- 第六區 夷隅郡、上埴生郡、長柄郡 一人
- 第七區 望陀郡、周准郡、天羽郡 一人
- 第八區 安房郡、平郡、朝夷郡、長狹郡 一人
- 茨城縣 議員總數 八人

第一區 東茨城郡、鹿島郡、行方郡 二人
 第二區 多賀郡、久慈郡、那珂郡 二人
 第三區 西茨城郡、真壁郡 一人
 第四區 豐田郡、結城郡、岡田郡、西葛飾郡、猿島郡 一人
 第五區 筑波郡、新治郡 一人
 第六區 信太郡、河內郡、北相馬郡 一人
 栃木縣 議員總數 五人
 第一區 河內郡、芳賀郡 一人
 第二區 上都賀郡、下都賀郡、寒川郡 二人
 第三區 安蘇郡、足利郡、梁田郡 一人
 第四區 鹽谷郡、那須郡 一人
 奈良縣 議員總數 四人
 第一區 添上郡、添下郡、山邊郡、廣瀨郡、平群郡 一人
 第二區 式上郡、式下郡、宇陀郡、十市郡、高市郡、葛上郡、葛下郡、忍海郡 二人
 第三區 宇智郡、吉野郡 一人
 三重縣 議員總數 七人
 第一區 安濃郡、一志郡 一人
 第二區 三重郡、鈴鹿郡、菟藝郡、河曲郡 一人

第三區 桑名郡、員辨郡、朝明郡 一人
 第四區 飯高郡、飯野郡、多氣郡 一人
 第五區 度會郡、答志郡、英虞郡、北牟婁郡、南牟婁郡 二人
 第六區 阿拜郡、山田郡、名張郡、伊賀郡 一人
 愛知縣 議員總數 十一人
 第一區 名古屋區 一人
 第二區 愛知郡 一人
 第三區 東春日井郡、西春日井郡 一人
 第四區 丹羽郡、葉栗郡 一人
 第五區 中島郡 一人
 第六區 海東郡、海西郡 一人
 第七區 知多郡 一人
 第八區 碧海郡、幡豆郡 一人
 第九區 額田郡、西加茂郡、東加茂郡 一人
 第十區 北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡 一人
 第十一區 渥美郡、八名郡 一人
 靜岡縣 議員總數 八人
 第一區 安倍郡、有渡郡 一人

第二區 富士郡、庵原郡 一人
 第三區 志太郡、益津郡 一人
 第四區 榛原郡、佐野郡、城東郡 一人
 第五區 周智郡、豐田郡、山名郡、磐田郡 一人
 第六區 長上郡、敷知郡、濱名郡、引佐郡、鹿玉郡 一人
 第七區 那賀郡、賀茂郡、君澤郡、田方郡、駿東郡 二人
 山梨縣 議員總數 三人
 第一區 西山梨郡、北巨摩郡、中巨摩郡 一人
 第二區 東山梨郡、南都留郡、北都留郡 一人
 第三區 東八代郡、西八代郡、南巨摩郡 一人
 滋賀縣 議員總數 五人
 第一區 滋賀郡、高島郡 一人
 第二區 甲賀郡、野洲郡、栗太郡 一人
 第三區 犬上郡、愛知郡、神崎郡、蒲生郡 二人
 第四區 西淺井郡、東淺井郡、伊香郡、阪田郡 一人
 岐阜縣 議員總數 七人
 第一區 厚見郡、方縣郡、各務郡 一人
 第二區 不破郡、安八郡 一人

第三區 海西郡、下石津郡、多藝郡、上石津郡、羽栗郡、中島郡 一人
 第四區 大野郡、池田郡、本巢郡、席田郡、山縣郡 一人
 第五區 武儀郡、郡上郡 一人
 第六區 加茂郡、可兒郡、土岐郡、惠那郡 一人
 第七區 大野郡、益田郡、吉城郡 一人
 長野縣 議員總數 八人
 第一區 上水內郡、市段郡 一人
 第二區 下水內郡、上高井郡、下高井郡 一人
 第三區 小縣郡、埴科郡 一人
 第四區 西筑摩郡、東筑摩郡、南安曇郡、北安曇郡 二人
 第五區 南佐久郡、北佐久郡 一人
 第六區 上伊那郡、諏訪郡 一人
 第七區 下伊那郡 一人
 宮城縣 議員總數 五人
 第一區 仙臺區、名取郡、宮城郡 一人
 第二區 柴田郡、刈田郡、伊具郡、亘理郡 一人
 第三區 黑川郡、加美郡、志田郡、玉造郡、遠田郡 一人
 第四區 栗原郡、登米郡 一人

第五區 桃生郡、壯鹿郡、本吉郡 一人
福島縣 議員總數 七人

第一區 信夫郡、伊達郡 一人

第二區 安達郡、安積郡 一人

第三區 田村郡、巖瀬郡、東白河郡、西白河郡、石川郡 二人

第四區 南會津郡、北會津郡、大沼郡、耶麻郡、河沼郡 二人

第五區 菊多郡、磐前郡、磐城郡、檜葉郡、標葉郡、行方郡、宇多郡 一人
巖手縣 議員總數 五人

第一區 南巖手郡、北巖手郡、紫波郡、二戸郡 一人

第二區 東閉伊郡、中閉伊郡、北閉伊郡、南九戸郡、北九戸郡 一人

第三區 稗貫郡、東和賀郡、西和賀郡、西閉伊郡、南閉伊郡 一人

第四區 江刺郡、膽澤郡、氣仙郡 一人

第五區 西磐井郡、東磐井郡 一人

青森縣 議員總數 四人

第一區 東津輕郡、上北郡、下北郡、三戸郡 二人

第二區 北津輕郡、南津輕郡 一人

第三區 中津輕郡、西津輕郡 一人
山形縣 議員總數 六人

第一區 南村山郡、東村山郡、西村山郡 二人
第二區 東置賜郡、南置賜郡、西置賜郡 一人
第三區 飽海郡、西田川郡、東田川郡 二人
第四區 最上郡、北村山郡 一人

秋田縣 議員總數 五人

第一區 南秋田郡 一人

第二區 山本郡、北秋田郡、鹿角郡 一人

第三區 河邊郡、由利郡 一人

第四區 仙北郡、平鹿郡、雄勝郡 二人

福井縣 議員總數 四人

第一區 足羽郡、大野郡 一人

第二區 吉田郡、阪井郡 一人

第三區 南條郡、今立郡、丹生郡 一人

第四區 三方郡、遠敷郡、大飯郡、敦賀郡 一人

石川縣 議員總數 六人

第一區 金澤區、石川郡 二人

第二區 能美郡、江沼郡 一人

第三區 河北郡、羽咋郡、鹿島郡 二人

第四區 鳳至郡、珠洲郡 一人

富山縣 議員總數 五人

第一區 上新川郡、婦負郡 二人

第二區 下新川郡 一人

第三區 射水郡 一人

第四區 礪波郡 一人

鳥取縣 議員總數 三人

第一區 邑美郡、法美郡、殿井郡、八上郡、八東郡、智頭郡 一人

第二區 高草郡、氣多郡、河村郡、久米郡、八橋郡 一人

第三區 汗入郡、會見郡、日野郡 一人

島根縣 議員總數 六人

第一區 島根郡、秋鹿郡、意宇郡 一人

第二區 能義郡、仁多郡、大原郡、飯石郡 一人

第三區 出雲郡、楯縫郡、神門郡 一人

第四區 邇摩郡、安濃郡、邑智郡 一人

第五區 那賀郡、美濃郡、鹿足郡 一人

第六區 周吉郡、穩地郡、海士郡、知夫郡 一人

岡山縣 議員總數 八人

第一區 岡山區、御野郡、上道郡、邑久郡、見島郡 二人

第二區 津高郡、赤阪郡、磐梨郡、和氣郡 一人

第三區 都宇郡、窪屋郡、賀陽郡、下道郡 一人

第四區 淺口郡、小田郡、後月郡 一人

第五區 上房郡、川上郡、哲多郡、阿賀郡 一人

第六區 具島郡、大庭郡、西西條郡、西北條郡、東南條郡、東北條郡 一人

第七區 勝北郡、勝南郡、吉野郡、英田郡、久米北條郡、久米南條郡 一人

廣島縣 議員總數 十人

第一區 廣島區、安藝郡 二人

第二區 佐伯郡 一人

第三區 沼田郡、高宮郡、山縣郡 一人

第四區 高田郡、三次郡、三谿郡 一人

第五區 加茂郡 一人

第六區 豐田郡 一人

第七區 御調郡、世羅郡 一人

第八區 深津郡、沼隈郡、安那郡 一人

第九區 蘆田郡、品治郡、神石郡、甲奴郡、奴可郡、三上郡、意蘇郡 一人

山口縣 議員總數 七人

第一區 吉敷郡、美禰郡、厚狹郡、佐波郡 二八
 第二區 阿武郡、見島郡、大津郡 一人
 第三區 赤間關區、豐浦郡 一人
 第四區 都濃郡、熊毛郡、大島郡 二八
 第五區 玖珂郡 一人
 和歌山縣 議員總數 五人
 第一區 和歌山區、名草郡、海部郡、有田郡 二八
 第二區 伊都郡、那賀郡 一人
 第三區 日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡 二八
 德島縣 議員總數 五人
 第一區 名東郡、勝浦郡 一人
 第二區 那賀郡、海部郡 一人
 第三區 名西郡、阿波郡、麻植郡 一人
 第四區 板野郡 一人
 第五區 美馬郡、三好郡 一人
 香川縣 議員總數 五人
 第一區 香川郡、山田郡、小豆郡 一人
 第二區 大內郡、寒川郡、三木郡 一人

第三區 鵜足郡、阿野郡 一人
 第四區 多度郡、那珂郡 一人
 第五區 豐田郡、三野郡 一人
 愛媛縣 議員總數 七人

第一區 溫泉郡、和氣郡、風早郡、野間郡、久米郡、伊豫郡、下浮穴郡 二八
 第二區 越智郡、桑村郡、周布郡 一人
 第三區 喜多郡、上浮穴郡 一人
 第四區 新居郡、宇摩郡 一人
 第五區 西宇和郡、東宇和郡 一人
 第六區 南宇和郡、北宇和郡 一人

高知縣 議員總數 四人
 第一區 土佐郡、長岡郡 一人
 第二區 幡多郡、高岡郡、吾川郡 二八
 第三區 香美郡、安藝郡 一人
 福岡縣 議員總數 九人

第一區 福岡區、怡土郡、志摩郡、早良郡 一人
 第二區 糟屋郡、宗像郡、那珂郡、御笠郡、席田郡、上座郡、下座郡、夜須郡 二八
 第三區 遠賀郡、鞍手郡、嘉麻郡、穗波郡 一人

- 第四區 御井郡、御原郡、山本郡、生葉郡、竹野郡 一人
- 第五區 三潞郡、上妻郡、下妻郡 二人
- 第六區 山門郡、三池郡 一人
- 第七區 企救郡、田川郡 一人
- 第八區 京都郡、仲津郡、築城郡、上毛郡 二人
- 大分縣 議員總數 六人
- 第一區 大分郡 一人
- 第二區 北海部郡、南海部郡 一人
- 第三區 大野郡、直入郡 一人
- 第四區 速見郡、玖珠郡、日田郡 二人
- 第五區 西國東郡、東國東郡 一人
- 第六區 下毛郡、宇佐郡 一人
- 佐賀縣 議員總數 四人
- 第一區 佐賀郡、神崎郡、小城郡、基肆郡、養父郡、三根郡 二人
- 第二區 東松浦郡、西松浦郡 一人
- 第三區 杵島郡、藤津郡 一人
- 熊本縣 議員總數 八人
- 第一區 熊本區、飽田郡、託麻郡、宇土郡 二人

- 第二區 玉名郡 一人
- 第三區 山鹿郡、山本郡、菊池郡、合志郡、阿蘇郡 一人
- 第四區 上益城郡、下益城郡 一人
- 第五區 八代郡、葦北郡、球磨郡 一人
- 第六區 天草郡 一人
- 宮崎縣 議員總數 三人
- 第一區 宮崎郡、北那珂郡、南那珂郡、兒湯郡 一人
- 第二區 北諸縣郡、西諸縣郡、東諸縣郡 一人
- 第三區 東臼杵郡、西臼杵郡 一人
- 鹿兒島縣 議員總數 七人
- 第一區 鹿兒島郡、霧山郡、北大隅郡、熊毛郡、取謨郡 一人
- 第二區 給黎郡、揖宿郡、穎娃郡、川邊郡 二人
- 第三區 日置郡、阿多郡 二人
- 第四區 高城郡、出水郡、南伊佐郡、薩摩郡、甕島郡 一人
- 第五區 菱刈郡、始良郡、桑原郡、西嶺嶽郡、北伊佐郡 一人
- 第六區 南諸縣郡、南大隅郡、肝屬郡、東嶺嶽郡 一人
- 第七區 大島郡 一人

◎會計法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

法律第四號

會計法

第一 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

會計法

第一 豫備費ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
 第二 豫備金ハ豫備外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス
 第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム
 第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ
 法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此洗用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ關スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテテ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

- 歳入ノ部
- 歳入豫算額
- 關定濟歳入額

收入濟歲入額

收入未濟歲入額

歲出ノ部

歲出豫算額

豫算決定後増加歲出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越費用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各、之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカヲサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ
- 第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

- 第二十六條 政府ニ属スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
 - 第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス
 - 第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 - 第二十九條 任拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス
- 第十章 雜則
- 第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
 - 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 - 第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
- 第十一章 附則
- 第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス
 - 決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各、其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○貴族院令

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實
施スルノ時期ハ朕力更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵板本武揚

勅令第十一號
貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各、其ノ同爵中ヨリ撰舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ
互撰シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各、其ノ同爵ノ撰ニ當リタル者
ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前項議員ノ數ハ伯子男爵各、總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ
終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國
稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其ノ撰ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年
ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ撰舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ

直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス
第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス
第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及撰舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シ勅裁ヲ請フヘシ
除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ
被撰議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

現何指令
内訓
行訓

明治類典附錄

第一類 上書建白請願公文式

○奈良香川二縣官報到達日數 廿一年十二月 閣令第二十二號

官報到達日數奈良縣ハ大坂府ニ香川縣ハ愛媛縣ニ同シ

〔參照〕 明治十六年(五月)第十四號布達

大坂府 四日 愛媛縣 九日

○官報定價改定 廿一年十二月 內閣訓令各官廳

明治十六年(五月)太政官第二十二號達官報定價ハ明治二十二年一月ヨリ一箇月金五拾錢一部金貳錢ト改ム

第二類 市制及町村制附理由

○市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼

方 二十一年八月十八日 內務省令第四號

第一條 市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼結了ノ日ニ至ル迄ハ區長戶長區書記役場筆生等ニ於テ從前之通事務取扱ヲ爲スヘシ

第二條 前條事務取扱中地方稅支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費并ニ區役所戶長役場ノ經費

第一類 上書建白請願公文式 第二類 市制及町村制附理由 七十一

ハ總テ該年度ノ豫算ニ據リ地方税又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタルモ前條ノ地方税又ハ町村費ニ關シ未タ該年度ノ豫算ヲ議定セス又ハ議定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ通府縣知事戶長ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取り前條費目必要ノ豫算ヲ定ムヘシ

第四條 市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村税徵收ニ至ルマテ市町村必要ノ費目ハ第二條ノ費用ヲ除クノ外區長戶長ニ於テ其ノ豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ假徵收ヲナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セザル場合ニ於テハ各區町村會ニ於テ區々ノ豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スヲ得

前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニヨリ現在セル區町村費又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充ツルヲ得

第五條 區長戶長ニ於テ取扱タル一切ノ金穀并ニ會計帳簿ハ其ノ金穀ノ種類及ヒ所屬年度ヲ區別シタル明細書ヲ制シ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルモハ第四條ノ金額ハ事務引繼前ニ支拂タルモノヲ除クノ外人口反別ヲ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口反別ノ最モ多キ部分ノ分屬シタル市町村長ヲ以テ主擔トシ其市町村長ニ引繼キ主擔市町村長ハ第七條但書ノ精算ヲ了シタル上其所屬外ノ部分ノ分屬シタル各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引繼クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルモハ更ニ引繼クヘシ

ナ要セス但閱覽ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條 第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ収支豫算ヲ議決シタル上市町村税各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲スヘシ

同條第二項ニ依リタルモハ新ニ徵收シタル市町村税ヲ以テ返價ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルモハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應シ各市町村長ニ於テ之ヲ徵收シ主擔市町村長ニ於テ全額ヲ取纏メテ其返價處分ヲ爲スヘシ

第七條 區長戶長ニ於テ未タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其引繼ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之ヲ精算ヲ作り市町村會ニ報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルモハ主擔市町村長ニ於テ精算ヲ作り主擔市町村長ハ其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主擔市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シテ其市町村會ニ報告セシムヘシ

第八條 前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルモハ市町村長ニ於テ舊區町村ニ割戻ヲナス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルモハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主擔市町村長ニ於テ割戻ノ高ヲ定メ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ配付シ各其割戻ヲナスヘシ

第九條 第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルモハ市町村會ノ決議ヲ經テ舊區町村ヨリ追徵補充スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルモハ主擔市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算ヲ作り其所屬外ノ部

分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ決議ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ追徴補充スヘシ

第十條 不納ニ屬シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徴シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナスヘシ

第十一條 從前郡部ト經濟ヲ異ニセサル區若クハ郡部内ノ市街地ニ市制ヲ施行スル片ハ該市ハ地方稅費目中郡區廳舍建築修繕費并郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノトス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

○市制施行地方指定 二十二年二月二日 內務省告示第一號

明治二十一年法律第一號市制第二百二十六條ニ據リ市制施行ノ地左之通指定ス

- 市制施行地
- | | | | |
|-------|-------|--------|-----|
| 東京府管下 | 東京 | 京都府管下 | 京都 |
| 大阪府管下 | 大阪 堺 | 神奈川縣管下 | 橫濱 |
| 兵庫縣管下 | 神戸 姫路 | 長崎縣管下 | 長崎 |
| 新潟縣管下 | 新潟 | 茨木縣管下 | 水戸 |
| 三重縣管下 | 津 | 愛知縣管下 | 名古屋 |
| 静岡縣管下 | 静岡 | 宮城縣管下 | 仙臺 |
| 巖手縣管下 | 盛岡 | 青森縣管下 | 弘前 |

- | | | | |
|--------|--------|--------|-----|
| 山形縣管下 | 山形 | 秋田縣管下 | 秋田 |
| 福井縣管下 | 福井 | 石川縣管下 | 金澤 |
| 富山縣管下 | 富山 高岡 | 島根縣管下 | 松江 |
| 岡山縣管下 | 岡山 | 廣島縣管下 | 廣島 |
| 山口縣管下 | 赤間關 | 和歌山縣管下 | 和歌山 |
| 德島縣管下 | 德島 | 香川縣管下 | 高松 |
| 愛媛縣管下 | 松山 | 高知縣管下 | 高知 |
| 福岡縣管下 | 福岡 久留米 | 熊本縣管下 | 熊本 |
| 鹿兒島縣管下 | 鹿兒島 | | |

〔參照〕 內務省告示第一號

法律第一號市制(明治二十一年四月二十五日官報抄録)
 第二百二十六條此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

○町村制ヲ施行セサル島嶼

朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣伯耆黑田清隆
 內務大臣伯爵松方正義

勅令第一號(官報一月十七日)

第二類 市制及町村制附理由

町村制第三百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管下

小笠原島 伊豆七島

長崎縣管下

對馬國

島根縣管下

隱岐國

鹿兒島縣管下

大隅國大島郡

大島 德ノ島 喜界島 沖永良部島 與論島

薩摩國川邊郡

硫黃島 黑島 竹島 口之島 臥蛇島 平島 中之島 惡石島 諏訪ノ瀬島

寶島

○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費

除町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月十六日

勅令第二號 (官報一月十七日)

町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本屬府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原島伊豆七嶋ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○東京市區改正土地建物處分規則

朕東京市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十八日

勅令第五號 (官報一月二十九日)

東京市區改正土地建物處分規則

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス
民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘシ

第二類 市制及町村制附理由

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

內務大臣伯爵松方正義

大藏大臣伯爵松方正義

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

內務大臣伯爵松方正義

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ内務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ彙ニ公用土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受クヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セザルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地貸借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築増築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

第三類 褒章勳位恩給救助

○勳章佩用式 二十一年十一月十六日 勅令第七十六號

朕勳章佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十一月十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第七十六號 (官報十一月十七日)

勳章佩用式

第一條 大勳位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フル時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ

第二條 寶冠章

第三類 褒章勳位恩給救助

- 一 勳一等寶冠章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ
 - 二 勳二等寶冠章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ
- 第三條 旭日章

- 一 勳一等旭日桐花章並旭日章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ
 - 二 勳二等旭日章ハ右肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 - 三 勳三等旭日章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 - 四 勳四等勳五等勳六等旭日章勳七等勳八等桐葉章ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ
- 第四條 瑞寶章

- 一 勳一等瑞寶章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ
 - 二 勳二等瑞寶章ハ右肋ニ佩フ
 - 三 勳三等瑞寶章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 - 四 勳四等瑞寶章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ
- 第五條 別種ノ勳章ハ之ヲ併佩ス其大綬章ハ之ヲ併佩セス

勳章記章佩用心得

明治二十二年二月七日 賞勳局告示第一號

- 第一款 一等勳章ヲ有スル者更ニ別種ノ一等勳章ヲ受ケタル時ハ旭日桐花章ト旭日章トハ同種ナリ併佩スルコトナシ
- 後ニ受ケタル一等勳章ノ正章并ニ其副章ト前ニ受ケタル一等勳章ノ副章トヲ併佩スヘシ

第二款 二等以下ノ勳章ヲ有スル者更ニ同種上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ其下級ノ勳章ヲ佩フルコトヲ止ム別種ノ同級若クハ上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ之ヲ併佩スヘシ

第三款 二等勳章若クハ一等ノ副章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ニ付テ其上位ニ列佩スヘシ

第四款 三等勳章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ノ上ニ佩フヘシ

第五款 四等勳章以下兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ノ右ニ佩ヒ其從軍記章若クハ襷章ヲ有スル者ハ之ヲ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第六款 勳章ハ男子ハ大禮服及ヒ通常禮服(燕尾服)着用ノ時佩フヘシ從軍記章及ヒ襷章有スル者亦同シ

通常禮服用ノ時ハ大綬章ヲ上衣ノ下ニ佩ヒ其副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フ又大綬章ヲ胴衣ノ下襦袢ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フルコトアリ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ其副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ又通常禮服用ニハ時宜ニ依リ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

第七款 勳章ハ婦人ハ大中小禮服用ノ時佩フヘシ

一等勳章ヲ有スル者大禮服ニハ大綬章及ヒ副章ヲ佩フ中小禮服ニハ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ又通常禮服用ニハ時宜ニ依リ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

第三類 褒章勳位恩給救助

二等以下ノ勳章ヲ有スル者ハ通常禮服用ノ時ニ於テモ時宜ニ依リ之ヲ佩フルコトアルヘシ

外國勳章記章

第八款 外國勳章佩用方ハ各彼ノ規則ニ依ル

第九款 我勳章ヲ有スル者我勳章ヲ佩ヒスシテ彼ノ勳章ノミヲ佩フヘカラス

第十款 彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ属スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

但外交ノ時宜ニ依リ彼ノ大綬章及ヒ其副章ヲ佩フル時ハ我大綬章ヲ省キ我副章ハ併佩スヘシ

第十一款 彼我ノ綬ヲ用ヒサル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

第十二款 彼我ノ喉下ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第十三款 彼我ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十四款 彼ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ我從軍記章及ヒ褒章ヲ彼ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十五款 彼ノ記章ト我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ之ヲ我從軍記章及ヒ褒章ノ

位置ノ左ニ列佩スヘシ

○略章略綬佩用心得

二十二年十二月十二日
勳章告示第二號

一各種勳章ノ略章(凡ソ徑曲尺五六分著者クハ其以下ノ大サニシテ勳章ノ形ト彩色トヲ備ヘタ。略小勳章ヲ指フ)ハ通常禮服用ノ時或ル場合

ニ於テ連鎖或ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩用スルヲ得外國勳章ノ略章モ亦同シ

二略綬ハ通常禮服用通常服用ノ節左襟見返シノ鈕孔ニ掛ケ佩フヘシ

三略綬ハ別種二箇以上ノ勳章ヲ有スル者各其綬ト同色ナル絹ヲ以テ二箇若クハ數箇合

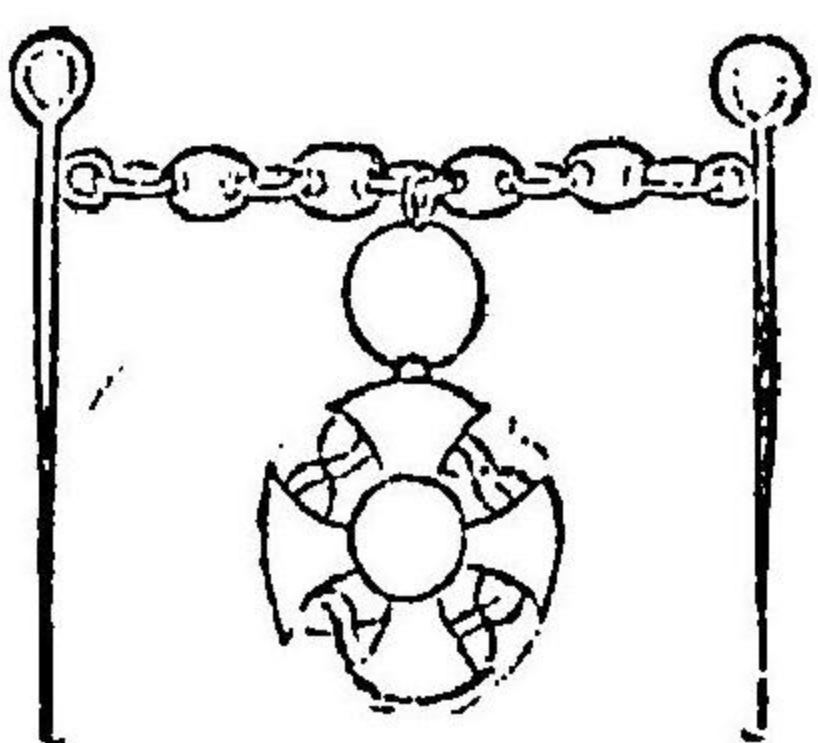
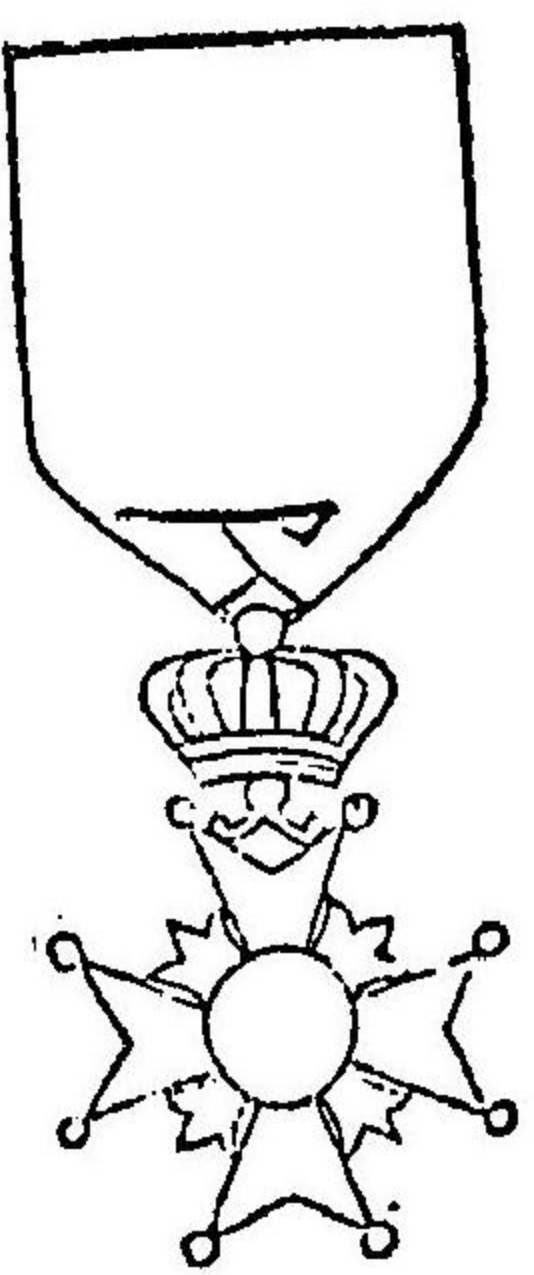
併ノモノヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又内外數種ノ勳章ヲ有スル者ハ内外數箇合併ノ略

綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得

四我略綬ヲ佩ヒテ外國ノ勳章ヲ佩フルコトナシ

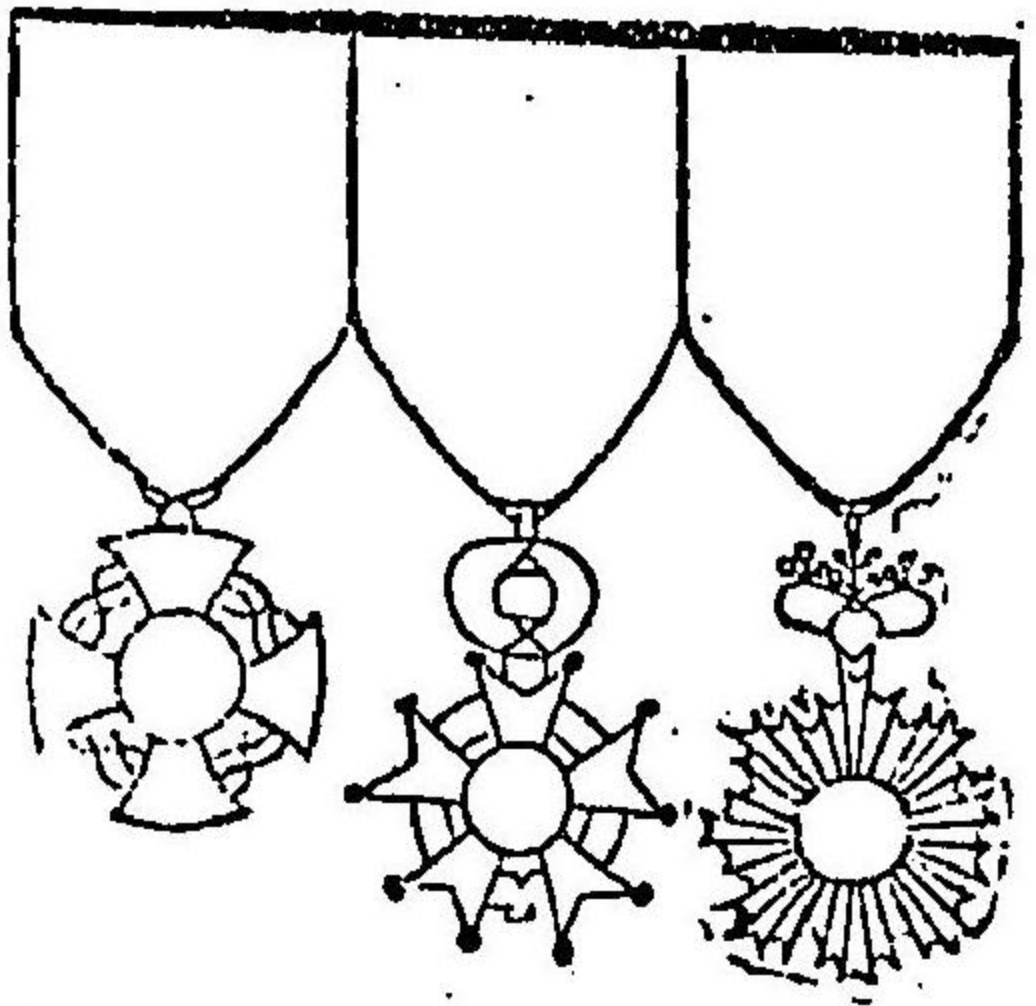
略章ヲ小綬ニテ佩ル圖

略章ヲ鏈鎖ニテ佩ル圖



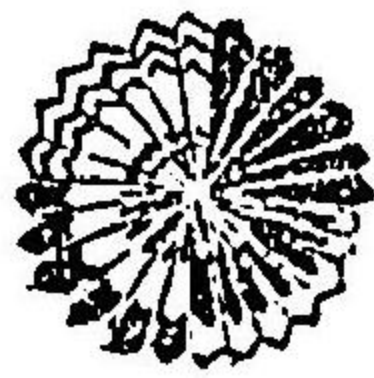
零章ヲ小綬ニテ聯佩スル圖

零章ヲ鏈鎖ニテ聯佩スル圖

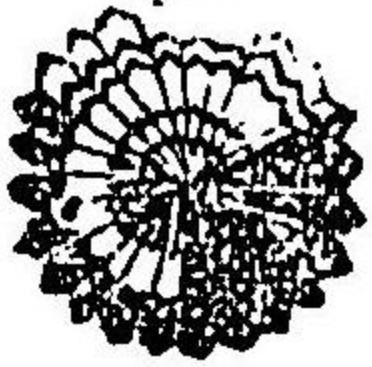


二種以上ノ零綬ヲ合併シタル口

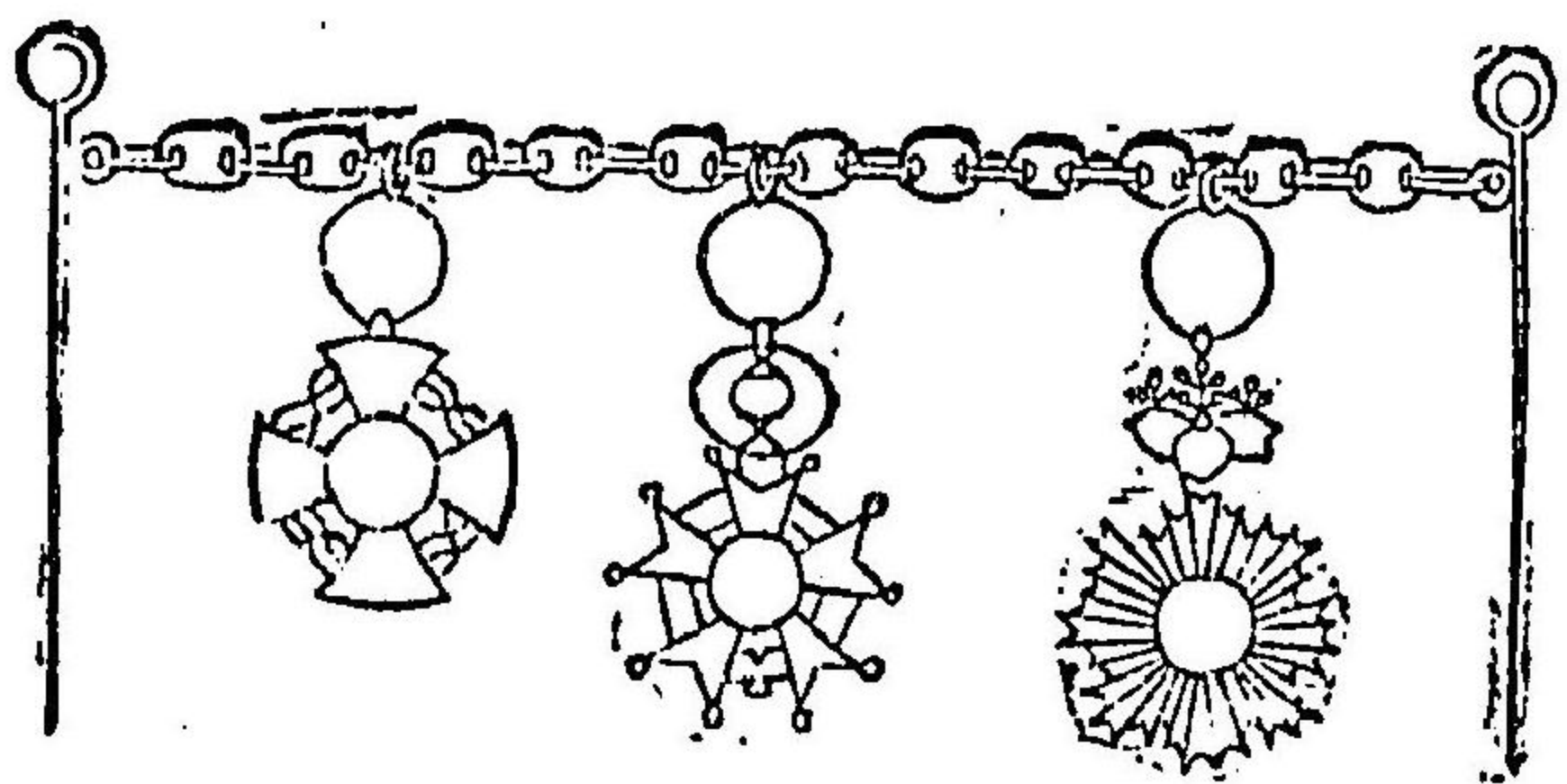
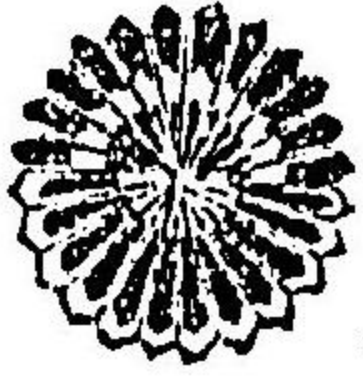
四種合併



三種合併



二種合併



第四類 府縣會及區町村會郡區町村

○公益ノタメ人民ノ設立セル學校病院等ノ外各府縣

公共財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議

定ニ付セサルモノ管理方

明治二十二年一月二十四日
内務省令第一號

第一條 從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議

定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又

ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知

事若クハ郡區長戶長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條 前條ノ財産ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議

會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條 公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ

名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

第五類 地所建物並道路橋梁

○民有橋梁渡津及道路等制服着用ノ電報配達人印鑑

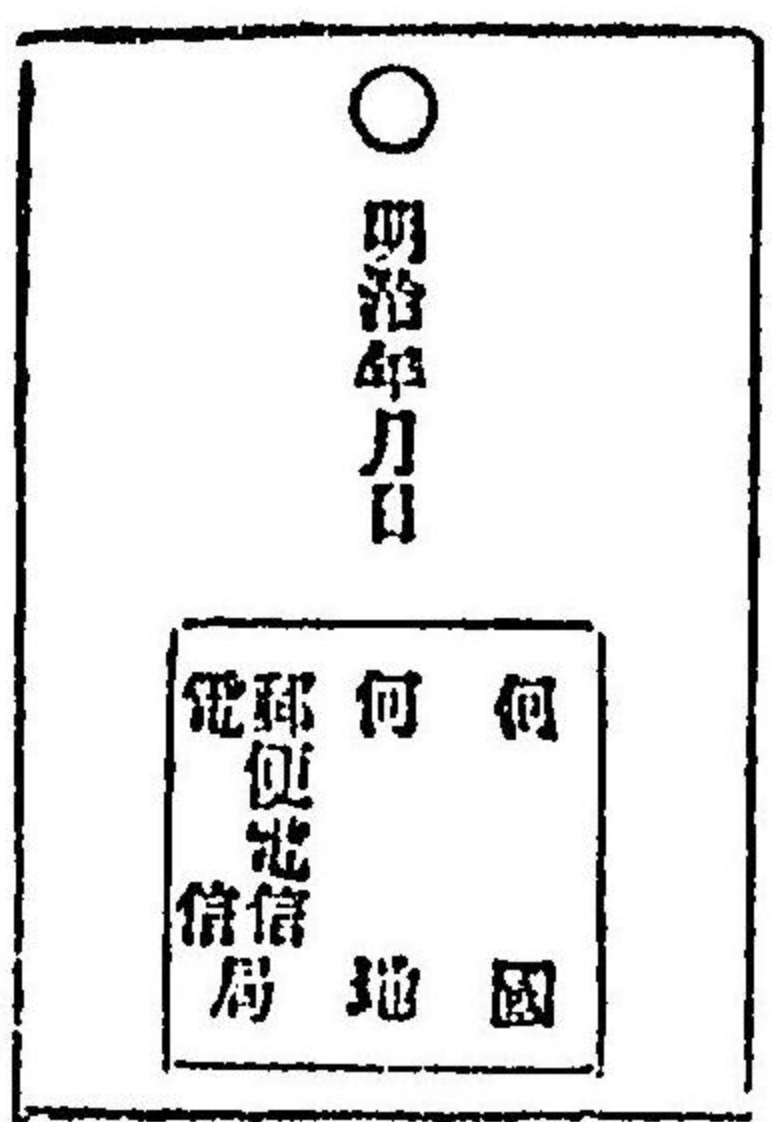
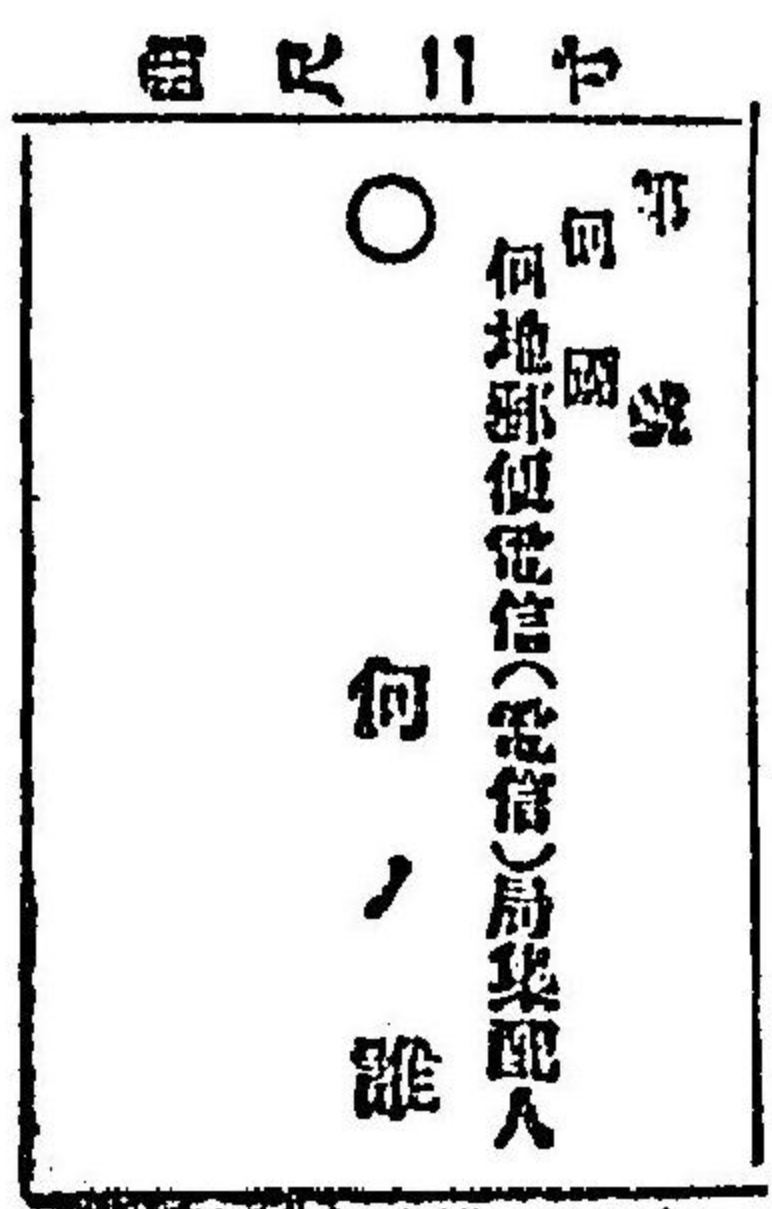
携帶ノ節ハ賃錢請求スルヲ得ス

二十一年十二月廿二日內務省
訓令第二十七號北海道府縣

第四類 府縣會及區町村會郡區町村 第五類 地所建物並道路橋梁 八十五

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ賃錢請求
不相成旨明治十五年乙第六十六號ヲ以テ相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着
否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達ス可シ

印鑑離形
二寸五分



第六類 警察及取締

○皇宮警察官禮式 二十二年二月 宮内省通

- 第一條 皇宮警察官制定ノ服裝ヲナシタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フ可シ
- 第二條 禮式ヲ分チテ最敬禮敬禮ノ二トス
- 第三條 室内ノ最敬禮ハ六歩前ニ於テ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニテ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ裏面ヲ袴ノ縫目ニ附着シ劍ヲ垂下シ左手ヲ以テ柄頭ヲ

握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

但シ佩劍セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

- 第四條 室外ノ最敬禮ハ 行幸啓儀仗兵アレハ 御旗ノ過ルルナリトス 六歩前ニ於テ正面ノ方向ヲ取り直立シテ兩足ヲ整ヘ佩劍ヲ垂下シ左手ヲ以テ劍ノ柄頭ヲ握リ右手ヲ舉ケ五指ヲ整接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ヤ外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ敬スヘキ人ニ注目シ通過了ルノ間其姿勢ヲ保ツヘシ

第五條 馬上ニ在ルトキ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り馬ヲ駐メテ禮式ヲ行フヘシ

第六條 天皇三后皇太子及皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

第七條 外國皇帝皇后皇太子及皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

第八條 室内ノ敬禮ハ五歩前ニ於テ姿勢ヲ正シ右手ニテ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ裏面ヲ袴ノ縫目ニ附着シ左手ヲ以テ劍ノ柄頭ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

但シ佩劍セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

- 第九條 室外ノ敬禮ハ五歩前ニ於テ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ五指ヲ整接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ヤ外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ受禮者ニ注目スヘシ
- 第十條 馬上ニ在ルトキ敬禮ハ通過ノ際禮式ヲ行フヘシ
- 第十一條 宮城並青山御所明宮御殿及雜宮禁苑御料地内ニ於テハ親任官以下高等官並有爵者タルコトヲ認知シタルトキハ凡テ敬禮ヲ行フヘシ

第六類 警察及取締

- 第十二條 本邦駐在各國公使及書記官書記生等ニ對シテハ又前條ニ同シ
- 第十三條 凡ソ禮式ハ下班ノ者ヨリ之ヲ行ヒ同僚ハ相互ニ敬禮ヲナスヘシ
- 第十四條 駐立スル際受禮者ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取り椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ
- 第十五條 本條ニ所謂室內トハ宮殿及居室事務室應接所等ニシテ廊下庖厨等ハ室外トナス
- 第十六條 凡ソ居室ニ入ルトキハ脱帽スヘシ
但シ上班ノ者下班ノ者ノ居室ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ケナシ
- 第十七條 官位記勳記辭令書等ヲ受クルトキハ第六條ノ禮式ヲ行ヒ適宜前進シ劔ヲ垂下シ帽ヲ左掖ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シ再敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ
- 第十八條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ
- 第十九條 途上上官ヘ申告セントスルトキハ定式ノ禮式ヲ行ヒ適宜前進シテ申告スヘシ
上官若シ歩ヲ止メスシテ進行スルコトヲ示シタルトキハ下班ノ者ハ上官ノ左側ニ副ヒ同步シテ申告スヘシ
但シ下班ノ者上官ト同行スルトキハ三步後ニ從フヘシ
- 第二十條 狹隘ノ道路及橋梁廊下階子段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ立止リ上官

- ノ通行ヲ待ツヘシ若シ下班ノ者既ニ進行中ナルトキハ便宜立戻リ上官ヲシテ已ノ通過ヲ待タシメサル様注意スヘシ
- 第二十一條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮式ヲ行フ能ハサル場合ニ於テハ物品携帶ノ儘停立シテ受禮者ヘ注目スヘシ
- 第二十二條 特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ從事スルトキハ禮式ヲ行フノ限リニアラス

○警視廳官制中改正

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十月十三日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
內務 大臣 伯爵 山縣有朋

勅令第六十九號

明治十九年(五月)勅令第四十二號警視廳官制中第三十一條並別表左ノ通改正ス第三十一條警部警部補消防司令消防司令補看守長及看守副長ノ官等月俸ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ増減スルコトヲ得但一等上級俸ヲ受ケタル者特別増俸ノ場合ハ別任官々等俸給令ニ依ル別表

判	任	官
---	---	---

官等	警部			消防司令			看守長			警部補	消防司令補	看守副長
	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
一等	七十五圓	六十圓	五十圓	七十五圓	六十圓	五十圓	七十五圓	六十圓	五十圓			
二等	五十圓	四十圓	三十圓	五十圓	四十圓	三十圓	五十圓	四十圓	三十圓			
三等	四十圓	三十圓	二十圓	四十圓	三十圓	二十圓	四十圓	三十圓	二十圓			
四等	三十圓	二十圓	十五圓	三十圓	二十圓	十五圓	三十圓	二十圓	十五圓			
五等	二十五圓	二十圓	十五圓	二十五圓	二十圓	十五圓	二十五圓	二十圓	十五圓			
六等	二十圓	十五圓	十圓	二十圓	十五圓	十圓	二十圓	十五圓	十圓			
七等	十五圓	十圓	五圓	十五圓	十圓	五圓	十五圓	十圓	五圓			
八等	十圓	五圓	三圓	十圓	五圓	三圓	十圓	五圓	三圓			
九等	五圓	三圓	二圓	五圓	三圓	二圓	五圓	三圓	二圓			
十等	三圓	二圓	一圓	三圓	二圓	一圓	三圓	二圓	一圓			

警察賞與規則

二十一年十月十二日
內務省訓令第二十一號國務府

警察賞與規則左ノ通相定ム

警察賞與規則

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スルモノトス

第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 金三圓以上十五圓以下

乙種 金五圓以下

特別賞 金十五圓以上三十圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限リ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 犯罪事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 左ノ罪犯ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一 國事ニ關スル重罪犯

二 兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三 貨幣偽造變造ニ關スル重罪犯

四 人命ニ關スル重罪犯

五 放火ニ關スル重罪犯

六 強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一 貨幣偽造變造ニ關スル輕罪犯

二 竊盜ニ關スル罪犯

第二項 前項ノ罪犯ヲ分明ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項 第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及

第一項ニ掲グル罪犯ニシテ其未遂ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上十圓以

下甲種ハ五圓以上二十圓以下ノ金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項 前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スル

コトヲ得

第五項 前數項ニ該當スルモノト雖モ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ尠キモノ若クハ金圓ヲ賞與シ難キ事情アル者ハ賞詞ヲ與フルコトヲ得

第四條 水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナル者ハ甲種ノ賞ヲ與フルコトヲ得

第五條 罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若クハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖モ其疑ナキモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條 賞與ハ何等ノ場合ヲ問ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス但第三條第一項ノ場合ハ一罪犯ニ付テノ賞トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ

一事件若クハ數事件一名若クハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキハ之ヲ賞與スルニハ一事件若クハ一罪犯ニ對スル金額又ハ數事件若クハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ人員ニ配當給與スヘシ

第八條 功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナル者ニ給ス若シ親屬ナキトキハ戶長ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ

其所在不分明ナルトキハ亦同シ但親屬ナキ者ニシテ三十六ヶ月ヲ經過シタルトキハ賞與ヲ施行セス

第九條 公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞ヲ與ヘス

第十條 自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞ヲ與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ一般ニ洪益ヲ及ホスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル者亦同シ

第十一條 罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコトヲ得ス

第十二條 第八條第十條第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ云フ

第十三條 巡查ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及特別賞ヲ與フルコトヲ得

第一項 第三條ニ掲グル罪犯ヲ捜査シ又ハ捕獲シ其功勞著シキ者

第二項 前項ニ該當セスト雖モ其功勞ノ前項ニ比シ相下ラサル者

第三項 第四條ニ掲グル事項及流行病ニ付其功勞著シキ者

第四項 自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救援シタル者

第十四條 巡查罪犯ヲ捕獲シテ功勞アリト雖モ未タ拘留セサル前ニ逃走セシメタルモノハ賞與スルコトヲ得ス

護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕獲シタルトキ亦同シ

第十五條 巡查私事旅行中其管内ニ於テ賞與スヘキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ

第十六條 巡查ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全數ニ分賦シ其巡查ニ屬スル金額ヲ賞與スヘシ

第十七條 本則第七條乃至第十一條ハ巡查ノ賞與ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十八條 巡查ノ賞與ハ其所屬廳ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ於テ施行スヘシ

第一項 訴ヲ受タル地ノ管轄廳

第二項 罪犯ヲ最初ニ受取タル他ノ管轄廳

第三項 犯罪事件ニ屬セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳

第十九條 賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ盡シ其金額ヲ定メ之ヲ差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其廳ニ於テ賞與スヘシ

第二十條 警部其他警察事務ニ從事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡查ノ例ニ準シ賞與スルコトヲ得

第二十一條 特別賞與ヲ行フタルトキハ其都度狀ヲ具シ報告スヘシ（二十二年一月十六日內務省訓令第二號ヲ以本條改正）

第二十二條 賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

○官吏公衆ニ對シ政事上學術上ノ意見ヲ演說又ハ叙述スルコトヲ得

凡ソ官憲タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又

二十二年一月二十四日內閣訓令各官廳へ

ハ之ヲ敘進スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ
法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

●伺指令

●桐章使用ノ件（和歌山縣）伺 明治二十一年十月十八日（電報）

縣下ニ於テ開キタル品階會賞狀ニ五七ノ桐章用フルモ若シカラヌヤ

（宮内省）指令明治二十一年十月十九日（電報）

品階會賞狀ニ桐章ヲ用フルハ禁令ノ限ニアラス

第七類 監獄

○集治監囚徒費用金額編入方

二十一年九月二十九日內務省訓令第十九號

明治十七年本省乙第二十九號達ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付スル金額ハ府縣會ノ議決ヲ經テ地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

○在監人ニ給與スル工錢ハ府縣會ノ議決ヲ經テ監獄費

雜入ニ編入 二十一年十月十六日內務省訓令第二十二號警視廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

監獄則ニヨリ監在人ニ給與スル工錢ハ自今府縣會ノ議決ヲ經テ監獄費內譯ニ給與錢ノ目ヲ設ケテ之ヲ支拂ヒ其工錢ハ監獄費雜入ニ編入スルコトヲ得

○監獄內建物ノ新築ニシテ稟請セス處分後報告スヘ

半種類ヲ定ム

明治二十一年十二月十四日
内務省訓令第二十六號
府縣

監獄内ノ建物ニシテ左ニ掲グルモノハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏ノ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

- 一 倉庫ノ新築
- 一 物置ノ新築
- 一 人民控所ノ新築
- 一 小使部屋ノ新築
- 一 監舎ニ属セサル厠ノ新築
- 一 馬建ノ新築

○看守押丁ノ特別功勞アル者賞與方

明治二十二年一月十一日
内務省訓令第二十一號
府縣

看守押丁ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ明治二十一年十月内務省訓令第二十一號警察賞與規則ニ據リ功勞ノ適度ニ應シ金拾五圓以下ヲ賞與スヘシ

- 一 反獄ヲ鎮制スルニ當テ其功勞著シキ者
- 二 自己ノ監守ニ非ラサル在監人ニシテ逃走スル者ヲ捕獲シ其功勞著シキ者
- 三 監獄内ノ水火風震及ヒ流行病ニ付其功勞著シキ者
- 四 自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ性命ヲ救援シタル者

○兵庫假留監聯合地方中奈良縣香川縣追加

明治十七年七月省令第三十號
連聯合地方區分中兵庫假留監聯合地方ニ奈良縣及香川縣ヲ加フ

明治二十二年一月二十六日
内務省訓令第三號
府縣
假留監

- 第八類 戸籍
- 第九類 衛生
- 第十類 圖書
- 第十一類 社寺
- 第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

○整理公債條例

朕整理公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシセ

御名 御璽

明治十九年十月十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大臣伯爵松方正義

勅令第六十六號 (宣稱十月十六日)

整理公債條例

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

- 第一條 整理公債ハ從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス
- 第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス
- 第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス
- 第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニテ五千圓千圓五百圓百圓五拾圓ノ五種トス但應募集者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得
- 第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 第七條 整理公債應募高每期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス
- 第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵集スヘシ
- 前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

- 第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ爲ストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得
- 抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ當籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス
- 第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス
- 第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス
- 第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ截斷シテ日本銀行本店又ハ代理店ニ持參スヘシ
- 第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過クレハ之ヲ支拂ハザルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス
- 第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戶長ノ與書ヲ受ケ證

書ヲ添へ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求書ヲ添へ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證スル戸長ノ與書ヲ受ケ名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他へ移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添へ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證據明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出人ヨリ納ムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ之

カ支拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スルモノアルトキハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ猶ホ發見セサルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテノミ起訴ノ權アルモノトス

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ監別シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ監別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ

本人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十九條 第二十條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及ヒ募集初年ノ利子ハ募集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○諸公債證書條例中改正削除及元金償還其他取扱手續等變更

朕諸公債證書條例中條項ノ改正削除及元金償還其他取扱手續等變更ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十一月六日

内閣總理大臣 伯耆黒田清隆
大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第七十三號 (官報十一月七日)

明治八年第九十五號布告新舊公債證書發行條例第三條第四條及第五條ノ第一節ヨリ第

四節マテ第六條ヨリ第十一條マテヲ削除シ第五條第五節中一切以下ノ五十七字ヲ「之ヲ償還セサルヘシ」ト改メ同節但書中又以下ノ三十二字ヲ削除シ同九年第九十八號布告金祿公債證書發行條例第二條但書同十三年第四十七號布告金札引換公債條例第十條但書第十三條同十六年第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例第七條第一項但書第九條第十條第十二條ヨリ第十六條マテ及第十七條中一切ノ二字ヲ削除シ同年第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例第七條第一項但書第九條第十條第十二條ヨリ第十六條マテ及第十七條中一切ノ二字ヲ削除シ同九年第九十八號布告金祿公債證書發行條例同九年第九十八號布告金祿公債證書發行條例同九年第九十八號布告金祿公債證書發行條例同十三年第四十七號布告金札引換公債條例同十六年第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例同第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例ニ據リ發行シタル諸公債證書ノ取扱ハ金祿公債金札引換公債金札引換無記名公債證書ノ利子支拂期日ヲ毎年五月一日ヨリ同二十五日マテ十一月一日ヨリ同二十五日マテトスルノ外明治十九年(十月)大藏省令第三十號整理公債取扱順序第十三條ヨリ第三十一條マテノ各條ニ據ル但其第十四條第十六條第二十條第二十一條第二十三條第三十一條中無記名證書ニ該當スル取扱ハ新舊公債證書發行條例金祿公債證書發行條例金札引換公債條例ノ記名證書ニ適用

○諸公債證書取扱方改定

明治二十一年十一月十四日
大藏省令第十四號

明治八年第九十五號布告新舊公債證書發行條例同九年第九十八號布告金祿公債證書發行條例同十三年第四十七號布告金札引換公債條例同十六年第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例同第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例ニ據リ發行シタル諸公債證書ノ取扱ハ金祿公債金札引換公債金札引換無記名公債證書ノ利子支拂期日ヲ毎年五月一日ヨリ同二十五日マテ十一月一日ヨリ同二十五日マテトスルノ外明治十九年(十月)大藏省令第三十號整理公債取扱順序第十三條ヨリ第三十一條マテノ各條ニ據ル但其第十四條第十六條第二十條第二十一條第二十三條第三十一條中無記名證書ニ該當スル取扱ハ新舊公債證書發行條例金祿公債證書發行條例金札引換公債條例ノ記名證書ニ適用

セサルモノトス

本令ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○起業公債證書條例中削除及取扱方改定

明治二十一年十一月十四日
大藏省令第十五號

明治十一年(五月)大藏省甲第十三號布達起業公債證書條例第一條第二節但書第二條第一節中「第六條」ヨリ「除キ」マテノ十八字「外國人ヲ除クノ外」ノ八字同但書「外國人ヲ除キ」ノ六字及第四條第五條第六條第七條ヲ削除シ證書ノ賣買讓與紛失消滅汚染毀損其他ニ係ル事項ハ總テ明治十九年(十月)勅令第六十六號整理公債條例並同年(同月)大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル但其取扱銀行ハ總テ從前ノ通トス
本令ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○紛失消滅ニ係ル諸公債證書及利札取扱方

明治二十一年十二月二十六日
大藏省告示第六十五號

本年十一月勅令第七十三號同大藏省令第十五號ニ據リ諸公債條例ノ改正ニ付テハ本年十二月三十一日以前ニ紛失消滅ニ係リタル無記名起業公債中山道鐵道公債金札引換無記名公債ノ證書若クハ利札ノ取扱ハ來ル二十二年一月一日以降整理公債條例ニ據ルモノトス
但代證書若クハ利子交付ノ時期ハ其紛失消滅ニ係リタル届出ノ月ヨリ起算ス

○鐵道費補充公債條例

朕鐵道費補充公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十八日

内閣總理大臣 伯耆黑田清隆
大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第六號(官報一月二十八日)

鐵道費補充公債條例

第一條 鐵道費補充公債ハ神奈川縣下戸塚橫須賀間滋賀縣下大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スルカ爲メニ證書額面貳百萬圓ヲ限リ募集スルモノトス
第二條 此公債募集ノ方法元金ノ償還年限利子歩合利子支拂期月及其他ノ事項ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

○貨幣條例中追加改正

朕貨幣條例中追加改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十一月六日

内閣總理大臣 伯耆黑田清隆
大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第七十四號(官報十一月八日)

明治八年(六月)第百八號布告貨幣條例中貨幣略圖並品位量目表補助銀貨五錢ノ次ニ左ノ一表ヲ加フ

第十二類 租稅及貸紙幣公債區町村費

白銅貨 五錢 (貨幣略圖並品位重量表略ス)

同條例貨幣通用制限中補助銅貨通用制限ノ項左ノ通改正ス

補助ノ白銅貨即五錢一錢及銅貨即二錢一錢ハ都テ一口ノ拂方ニ一圓ノ高ヲ限ルヘシ

○造幣規則中改正 二十二年一月 大藏省令第二號

明治十六年五月第十五號布達造幣規則中左ノ通改正明治二十二年四月一日ヨリ實施ス

第一條 未項九月一日ヨリ十月三十一日マテ三月十六日ヨリト改ム

第三條 輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサルヘシ但一口ノ輸入高巨額

ニシテ工程ニ超過シ第十條期日ニ代リ貨幣ヲ拂渡シ得サルトキハ輸入人ト商議ノ上更ニ拂渡ノ期日ヲ定メ受入ルヘシ

第十條 但期日前以下ナ「但シ期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ造幣局成貨拂渡證書ニ對シ

其證書面ニ指定シタル日本銀行本店又ハ大坂支店ニ於テ年四歩ノ歩合ヲ以テ割引スヘシ」ト改ム

第十三條 初行「横濱」ノ下ニ「神戸」ノ二字ヲ加フ

第十五條 第一項中「補助銀銅貨幣重量ニ制限ナシ無手数料」ノ十七字並ニ第二項ヲ削除ス

○米商會所並株式取引所收稅規則第一條中改正

朕米商會所稅率改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十一月十二日

内閣總理大臣 伯耆黒田清隆

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第七十五號 (官報十一月十四日)

明治十八年(十一月)第三十八號布告米商會所並株式取引所收稅規則第一條中米穀定期賣買千分ノ二ヲ万分ノ六ニ改ム但明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

○横濱正金銀行條例中改正

朕横濱正金銀行條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二日

内閣總理大臣 伯耆黒田清隆

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第十號

明治二十年(七月)勅令第二十九號横濱正金銀行條例中左ノ通改正シ明治二十二年六月一日ヨリ施行ス

第十五條 横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラル、者モ亦同シ

第二十二條 横濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於

テ危険ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ置キ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

○他管廳歳入納付金下戻ニ係ル支拂切符及同案内書

ニ主管ノ印ヲ押捺セシム 明治二十一年十月十一日大藏省訓令第四十一號 北海道廳府縣

他管廳ニ係ル歳入ヲ取扱其納付金ニ過誤納アリテ下戻承諾ヲ得發付スル支拂切符及支拂案内書ニ(某廳主管)ノ印ヲ押捺スヘシ

○租稅計算整理順序中更正追加

二十一年十一月五日大藏省訓令第四十二號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

客年(七月)當省訓令第五十號租稅計算整理順序中左ノ通更正追加ス

第一條ニ列記表名第二項ノ割註ヲ(納期ヲ豫定セサルモノ及國立銀行、北海道(水産、米商會所、株式取引所、度量衡稅ヲ除ク)ニ改ム

一第六條及第七條ヲ削リ更ニ左ノ各條ヲ挿入シ舊第八條ヲ第十條トナス

第六條 租稅表送付後所屬年度ノ會計整理期限(翌年度八月三十一日)以前ニ於テ賦課額ニ減殺スヘキモノヲ生シ又ハ誤テ賦課徵收シタルモノヲ發見シ其稅金還付ヲ了シタルトキハ前

ノ租稅表ニ對シ減額表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ

第七條 租稅表送付後所屬年度ノ出納閉鎖(翌年度十一月三十日)以前ニ於テ租稅表ハ編入洩レノ金額ヲ發見シ其徵收處分ヲナシタルトキハ前ノ租稅表ニ對シ減額表ヲ調製シ其時々之

ヲ送付スヘシ

第八條 前兩條ニ掲グル場合ノ外其年度ノ結算終了以前ニ於テ租稅表又ハ租稅收納報告表ノ誤記脱漏其他編入方ノ錯誤等ヲ發覺シタルトキハ租稅表ハ訂正増減表收納報告表ハ更正表ヲ調製シ其訂正又ハ引換ヲ請フヘシ

第九條 出納閉鎖ヲ過キ租稅表ハ編入洩レノ金額ヲ發見シ追徵處分ヲナシタルトキハ其年度(會計)ニ於テ既往年度追加租稅表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ但稅目ノ廢止ニ屬セシカ爲メ更ニ科目ヲ設ケタルモノハ其稅表ヲ調製シ右同期ニ之ヲ送付スヘシ

一租稅表其他差立期限表中地租延納年賦金表ノ差立期限及ヒ諸表樣式ノ内第十八號式ヲ改正シ第十三號第十四號及第十六號式ノ表題其他諸表調製心得ニ數項ヲ追加ス

但改正樣式等ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

○地租延期年賦額異動報告區分及送付日期

二十一年十一月五日大藏省訓令第四十三號(地租延納年賦アル府縣)

客年(七月)當省訓令第五十二號地租延納年賦額異動報告ノ儀明治二十一年五月以降ノ分ハ左ノ區分ニ依リ製表送付スヘシ

其年四月一日ヨリ同三十日迄ニ係ル分 五月三十一日限

其年五月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル分 四月三十日限

○歳出支拂切符交換ノ場合ニ於テ其切符取消及再發

ノ分編入方 二十一年十一月五日 司法省訓令第十六號 裁判所

大藏省令第十一號ヲ以テ歲出取扱順序中修正刪除相成俟ニ付歲出支拂切符ヲ交換シタル場合ニ於テ其切符取消ノ分ハ歲出報告ヲ取消シ再發ノ分ハ其月ノ歲出報告ニ編入シ客年八月會檢第一九九號ノ支拂切符交換高報告書ハ進達ニ及ハス

○外國ニ輸出スル物品海關稅免除

朕藥材其他無稅輸出ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十二月十八日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第八十三號 (官報十二月廿九日)

外國ニ輸出スル左ノ物品ハ明治二十二年一月一日ヨリ海關稅ヲ免除ス

但課稅ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

- 一 藥材樟腦ヲ除ク、製藥染料、彩料、阿膠、魚膠、蠟燭、墨類、印肉、洗粉、石鹼、磨齒粉、靴墨
- 一 醫術用諸品、學術用諸品、香類、化粧用品
- 一 織物、絹物、組物、縐絲、組絲、網絲、釣絲、弦線、網細類
- 一 反古類
- 一 工作ヲ加ヘタル木材木片及板
- 一 金屬製ノ線釘箔及薄延板
- 一 寶石、印材、玻璃、琥珀、雲母、石綿、石、土、砂、湯ノ花

- 一 灰類、セメント、コーク、團炭、油煙、木炭、薪
- 一 山藓、山藓絲編除ク、麻苧
- 一 草木ノ皮根、蘆葦花及脂、絲瓜、竹材、竹皮、棕櫚皮、蘇鐵葉
- 一 枋、澁繭、糠、熟艾、楨肌、漿粉
- 一 穀菽、蔬菜、果實、植木、苗、種子
- 一 穀菽蔬菜果實幹根等ヲ以テ製シタル食物、餡餅及瓶詰食物
- 一 菌類椎茸ヲ除ク
- 一 菓子、酒類、酢醬油、油類、製造烟草
- 一 搾粕類
- 一 禽獸蟲類、卵類、獸肉、獸脂、乾酪チーズ、乳油バター、蜂蜜
- 一 骨、角、羽、毛、介殼、筋、牙、蹄、魚肝、鮫鱈、珊瑚、貝珠
- 一 生魚、鱈節
- 一 海草昆布、刻昆布、石花菜及寒天ヲ除ク

○森林收入延納貸金整理順序

二十二年一月農商務省訓令第十六號
府縣(沖繩縣ヲ除ク)大林區署

森林收入延納金整理順序左ノ通相定メ明治二十二年度ヨリ施行ス

但書式ハ山林局ヨリ送付ス (書式略ス)

森林收入延納貸金整理順序

第一條 延納貸金ハ此順序ニ據リ整理スヘシ

第十二類 租稅及貨幣公債區町村費

第二條 延納貸金トハ森林收入ニシテ左ニ掲クモノヲ云フ

一 相當期限内ニ上納スルコト能ハスシテ年月賦若クハ据置ノ後徴收スヘキモノ
二 身代限ノ處分ヲ受ケ追テ身代持直次第徴收スヘキモノ

第三條 延納貸金ヲ徴收スルハ森林收入(款)雜入(項)年賦及延納金ノ目ヘ編入スヘシ

第四條 左ニ掲クル延納貸金ニ關スル諸件ハ經伺ノ上處分スヘシ

一 返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ負債ノ義務ヲ他人ヘ移轉スルコト
二 棄捐
三 抵當員ノ交換
四 八箇月以上徴收期限ノ延期願

第五條 負債主他ノ管轄内ヘ住居ヲ轉シタルトキ大林區署設置アル地方ハ其大林區署

第六條 每年三月三十一日及十一月三十日ノ終結現狀ニ據リ延納貸金現在高報告書式

第七條 延納貸金ノ異動ハ左ノ兩期ニ分チ延納貸金異動報告書式ヲ調製シ前條報告書ト同時ニ當省ヘ差出スヘシ

一 甲年四月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間
二 甲年十二月一日ヨリ乙年三月三十一日迄ノ間

○人民所持ノ印紙賣買方訓令中改正

二十二年一月大藏省訓令第一號
北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十年(十一月)大藏省訓令第六十五號中「郡區」ノ二字ヲ「府縣」ノ二字ニ改ム

●伺指令

●歳入決算報告書書式中ノ件(福岡縣)問合 明治二十一年九月二十五日

本年御省訓令第三十二號歳入決算報告書書式中歳入豫算増減表ノ備考勅令若クハ法律ニ據リ増減シタルモノヲ記入調製スヘキモノニシテ其増減ナキ場合ハ決算報告表ノ豫算現額ト同額ナル豫算原額ヲ記入スルニ止リ其他ニ記入ヲ要スルモノモ有之問敷續被存候條若シ御差支無之儀ニ候ハ、増減ナキ場合ハ該表進達セサル様致度
道而増減表調製ニ當リ其増減ナキ税目ハ該表ヘ記入セサルモ御差支無之儀

(大藏省主計局)回答 明治二十一年十月十三日

右ハ御意見ノ通りテ可然尤モ此場合ニ於テハ決算報告表表紙ニ「豫算現額」ニ對シ増減ナキヲ以本表豫算現額ノ欄内ニハ豫定額ト掲ク「ト御記帳相成度且御追番ニ趣ハ差支候條都テ御記帳可有之儀

●第二部歳入現金收入整理簿ノ件(島根縣)伺 明治二十一年九月十一日

本年(三月)御省訓令第十三號ヲ以テ第二部歳入月別整理簿被廢候ニ付第二部歳入報告書其他整理方徳島縣(本年四月官報第四百四十二號)ヨリ御省主計局長(照會)處右報告書ハ徴收額整理簿ヲ以テ調製方云々御回答相成然ルニ第二部歳入中現金收入(地券下付替手數料トモ)ニ關スル部分ハ徴收額整理簿ヘ登記致シ雖キ筋ニテ整理上差支候條別紙様本(別紙様本略之)ノ通り現金收入整理補助簿本年度以降新設方御承認相成度
追テ客年一月御省訓令第一號ニヨリ地券下付替手數料現金ハ戸長ニ於テ納付書ヲ以テ金庫ヘ納入スヘキモノ
ニ付現金受拂簿ヘ登記セサルモ本支補助簿ヘハ登記ノ積念副申候也

(大藏省)指令 明治二十一年九月二十六日

伺ノ趣第二部歳入中現金收入ノ分(地券下付替手數料トモ)ハ二十一年度以降徴收額整理簿ニ登記(借方貸方トモ)整理スル儀ト心得ヘシ

●歳出支拂案内書差引表送付方ノ件(靜岡縣)照會 明治二十一年十二月十八日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

本年三月御省訓令第十號ニ依リ歲出報告書ハ添付シテ發出シ候國庫金出納所支拂案内書差引表ノ儀ハ支拂案内書受領高ヲ元受トシ之ニ對シ現金支拂額並ニ差引未拂額ヲ掲記セシモノニシテ案内書受領高ノ當月ニ於テ悉皆現金ヲ支拂ハザルトキハ更ニ其翌月ノ差引表ニ於テ前月分ノ案内書ニ對スル現金支拂額トシテ其月ノ案内書受領高ト區別シテ之ヲ掲ケ猶未拂アルトキハ更ニ其翌月ノ差引表ニ之ヲ掲ケルモノニ有之故ニ會計整理期限後即翌年度九月以後ハ縣廳ニ於テ支拂案内書ヲ發セザルモ出納所ニ於テハ前月受領ノ案内書ニシテ前月中現金支拂未済ノモノアルトキハ前月ノ追補ニ屬スル分トシテ其月ノ差引表調製出納所ヨリ送付シ來ルモ右ハ出納所ノ現金支拂未済ノモノタル迄ニ止マリ候儀ニ有之且ツ歲出報告書ハ差引表ヲ添付スル縣廳支拂切符發行高ト出納所案内書受領高ト差違無之ヲ證スルカ爲メニシテ出納所ニ於テ現金支拂ノ有無ヲ調査スルノ主意ニ無之ト存シ候ニ付右前月ノ追補ニ屬スル差引表ハ出納所ヨリ送シ來ルモ縣廳ヨリハ御省ヘ進達シハ不及候トハ存シ候

(大藏省主計局) 回答 明治二十一年十二月二十四日

當月支拂案内書發行無之前月若クハ前々月發行ノ支拂案内書ニ對シ出納所ニ於テ現金支拂高ヲ掲ケ送付相成候場合ニ於テハ該表ハ直ニ當局ヘ御送付相成候儀ト御承知有之度

●決算報告書書式凡例ノ件(新潟縣收稅長)問合 明治二十一年十二月十五日

本年六月大藏省訓令第三十二號ヲ以テ制定相成候豫算決算報告書凡例中初項ニ豫算増減報告表増減トハ勅令若クハ法律ニヨリ増減セシモノヲ掲載スヘシト有之右ハ元關屬縣管轄東部原郡當管轄ニ屬セラレ同郡ニ對スル豫算其當時増減表トシテ附額致置ヨリ如此モ勿論勅令ニヨリ増減セシモノトシテ取扱可然哉

(大藏省主計局長) 回答 明治二十二年一月十四日

●新潟縣知事() 問合 明治二十二年一月十四日

豫算收稅長ヨリ御開合ノ趣了承右凡例第二項ノ主意ハ勅令又ハ法律ニヨリ直チニ豫算ニ増減ヲ生スルモノ即チ稅則ノ新設改正等ノ場合ヲ指示シタル儀ニシテ管轄管轄ヨリ増減ヲ生スルモノ、如キハ此限外ニ有之候尤管轄管轄ニヨリ増減ヲ生スルモノト雖モ決算報告書ノ原豫算額ヲ變更スル儀ニハ有之候ハ凡例第一項ノ原豫算額ヲ分劃リ繼タルモノニ付之レテ甲縣ノ原豫算額ヨリ減シ乙縣ノ原豫算額ニ併合スルモノニシテ前件トハ事自カラ區別有之候間右様御了知相成度

●歲入月額豫算表調製方ノ件(澁信省會計局)照會 明治二十二年一月十七日

毎年度歲入月額豫算表ノ儀ハ歲入取扱順序第十條第十七號乙書式ニヨリ各出納所限リ毎款項目ニ區分シ月別ケ調製ノ書式ニ有之候處二十一年度以降歲入報告書書式改正相成且ツ各出納所ヨリ送付セル歲入金毎月報告表モ款項ニ止マリ月分ケ記帳被廢從ツテ二十二年度歲入月額豫算表調製ニ際シ毎出納所毎二月分ケノ開チナスコト不容易ニ付テハ各出納所毎款項ニ區分シ月分ケヲ以テ調整可然哉

(大藏省主計局) 回答 明治二十二年一月二十六日

各出納所毎二月別ヲ以テ款項ニ留メ調製ノ儀若支無之儀

●證券印紙交換ノ件(埼玉縣)伺 明治二十一年十二月四日

本年五月閣令第七號ニ據リ登記料及手数料ハ六月一日以降證券印紙ヲ以テ上納スヘキ儀ニ相成候ニ付爲メニ印紙類廢捌入ハ從來該地方ニ於テ管轄管轄キ證券二十五錢五十錢乃至一圓印紙ノ費下ヲ願來候處本年勅令第六十六號ヲ以テ右登記印紙規則ヲ公布セラレ本月一日ヨリ施行ニ付印紙廢捌入ハ已ニ之レガ費下ヲ受ケ現ニ費捌殘餘ヲ所持スルモノ近年登記用ノ外買テ斯ノ如キ巨額ノ證券印紙ヲ使用スルコト稀ナレハ殆ント將來廢捌ノ目的廢紙タルモノ、如シ故ニ十錢以下ノ證券印紙ト交換若クハ買戻シテ請願スルモノアリ然リト雖モ明治十九年御省令第一號印紙類廢下費捌規則ニ由リ同則第十七條ノ場合ヲ除クノ外買戻シ難相成ハ勿論ノ儀ニ可有之就テハ登記二十一號所所在地ノ廢捌入ニシテ全ク登記用ノ爲メニ賣下ヲ受ケ現ニ二十五錢五十錢乃至一圓印紙ヲ所持スルモノニ限リ十錢以下ノ證券印紙ト交換ノ儀御隨時相成度

(大藏省) 指令 明治二十一年十二月十一日

●租稅收納報告表ノ件(茨城縣收稅長)照會 明治二十一年十一月二十九日

租稅收納報告表調製方御改正ニ就テハ二十年度歲入モ改正樣式ニ依リ調製スヘキハ勿論ノ處樣式官損金備考ニ但徵稅額訂正表第何號ト有之候得ヘ共年度ニ於テハ總テ官損稟告ヲ要シ候儀ニ付徵稅額額額ハ他ノ事故ニテ減額ヲ要セシ分ト合併報告致來候ニ付テハ特ニ該管スルノ報告無之候間廿年度ニ限リ稟中書番號ヲ記入致候テモ御差支無之儀

(大蔵省主税局計課)同答 明治二十一年十二月一日 御見込ノ通

公債利札並ニ利金ノ件(東京府)伺 明治二十一年十一月二十二日

今般留公債證書條例改正ニ付該事務ニ關スル必要ノ諸帳簿書類等ハ日本銀行へ引渡方御省第四十四號ヲ以テ御訓令相成候ニ付テハ昨二十年十一月以後ノ利札事故ノ爲メ貼付未済ノ者有之右ハ前件引渡ノ期日ニ至ルモ貼付離相成利札ハ御省へ還納及フヘキ又ハ日本銀行へ引續方取計フヘキ且去ル十九年五月以前ニ係ル利金ニシテ交付方御省中ノ者有之右等ノモノハ未済者ノ調書ヲ製シ同銀行へ引續可然哉

(大蔵省)指令 明治二十一年十一月二十八日

第一項 金庫公債證書ニ屬スル明治廿年十一月渡以降利札貼付未済ノ分ハ當省へ還納シ其旨日本銀行へ報告スヘ
第二項 伺之通

整理公債證書無記名ヲ記名ニ變換其他取扱方ノ件(日本銀行)伺 明治二十一年十月三十一日

整理公債證書條例第十五條ニ無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戸長ノ奥印ヲ受ケ云々ト有之候處其奥書ノ文圖タル該請求書ノ全部ヲ保證スルアリ或ハ單ニ所有者ノ在籍ト印鑑トヲ保證スルニ止マル等其區々ニシテ取扱上疑義ニ相涉リ候間何レヲ尤當トシ取扱可然哉

後ニ七分利付金庫公債證書所有者アリシニ該所有者右公債證書ヲ變シ置逃亡セシニ因リ之カ管財人印鑑ハ戸長ノ保證ヲ經テ届出アルニ因リ毎期利子ハ該印鑑ニ照シ拂渡來候處今般留公債證書ハ當省ニ係リ元金代リ整理公債記名證書ヲ右管財人ヨリ請求セリ就テハ該新證書記名方ノ儀ハ前逃亡等ニ不拘本人記名タルヘキ哉又ハ其管財記名人ヲ以テ交付シ可然哉

(大蔵省)指令 明治二十一年十一月二日

第一項 戸長奥書ノ要ハ本人ノ在籍及印鑑ヲ證明セシムルニ在リ
第二項 逃亡者所有ニ係ル證書ハ何某財產管理人何某ト記名スヘシ

公債證書事務引續ノ件(滋賀縣)伺 明治二十一年十一月二十四日

今般訓令第四十四號及第四十五號ニ付テハ左ノ通相心得可然哉

- 第一 現在所轄ノ公債證書高ヲ引續クモノナレハ債主簿面ニ買受而シテ賣渡濟ノ形跡アリト雖トモ此ノ部分ニ對スル申繼ヲ爲スニ及ハス其引渡迄ニ係ル處分上ニ付後日ノ辨明ハ常縣ノ責任タル勿論ニ候哉
- 第二 公債證書ノ割印帳其他未了ニシテ將來處分上ニ關スル必要ノ書類ハ引渡スヘシト雖トモ既ニ處分濟ノ割印書及削除シタル舊債主簿割印帳等ハ引續クヘカラサル筋ト可相心得哉
- 第三 債主簿ヲ始引渡ノ後本年內ニ於テ他府縣へ所轄替ニ寄リ公債證書携帶轉出届候節ハ追テ取扱店ノ開始マテ處分方停止スヘキヤ
- 第四 前項ニ反シ他ヨリ携帶又ハ他ノ管内ニテ替テ買取り轉入届出ルモノハ之ヲ取扱而シテ追加トシテ引渡ヲ爲スモ書省告示第四百一十一號ニ抵觸セザルヤ但シ兼テ申繼ヨリ送付アリシモノニ限ル
- 第五 去十九年十月以前ニ係ル未拂元利金ハ其事故申立ノ有無ヲ債主所属ノ各取扱店へ申繼而シテ去ル十八年貴省第八號訓達未償還額表進達ハ本年ヲ限リ廢止可然哉
- 第六 亡失證書告示中又ハ利賦札亡失シ七箇月未滿ノモノハ其事由ヲ詳細申繼キ爾後ハ取扱店ニ於テ滿期ノ上代置書又ハ利賦金交付方ノ手續ヲ爲ス儀ニ候哉
- 第七 金庫公債證書ニ屬スル二十年十一月以降ノ利札未貼付ノ分ハ該債主所属取扱店へ可引渡候
- 第八 豫テ準備トシテ受取置候公債證書補足記名紙ハ各取扱店所属取扱店へ可引渡候
- 第九 去十四年貴省乙第五十號御達ハ本年ヲ限リ消滅候哉尤從前亡失證書ニシテ發見シ其但書場合ニハ貴省へ直ニ還納可然哉

(大蔵省)指令 明治二十一年十二月四日

- 第一項 第二項 第五項 第六項 第九項 伺ノ通
- 第三項 他府縣へ所轄替ニ寄リ公債證書携帶轉出届出ノモノト雖トモ書省告示第四百一十一號ニ準シ停止スヘシ
- 第四項 本年十二月四日以前甲種ヨリ發送セシモノニ限リ伺ノ通
- 第七項 未貼付ノ利札及第八項補足記名紙ハ當省へ還納スヘシ

第十三類 軍事

○徵兵令改定

明治二十二年一月二十一日
法律第一號

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖
海軍大臣伯爵西郷從道

法律第一號(官報一月二十二日)

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサ

ル者ハ之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ隨ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ隨ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

豫備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ豫備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但シ常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得
第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校帝國大學預科及小學校ヲ除ク府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證

書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食糧被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ受ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歲以上二十六歲以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ六箇月間陸軍現役ニ服スルコトヲ得其現役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ辨償スルモノトス

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七箇年間豫備役ニ服シ三箇年間後備役ニ服ス第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勳務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勳務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勳務演習及簡閱點呼ヲ爲ス又豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ痲疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 体格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

但陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カテサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及収入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勸務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過セル壯丁ハ一箇年間二月一日ヨリ豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スル時又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又

ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身体ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ルモノ及正當ノ事故ナク身体ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣并東京府管下小笠原島ニハ當分ニテ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役ニ二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ属シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ属シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル時ハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ属シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル時ハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員トナリ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ属シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間

明治二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員トナリ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員トナリタル者ハ亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ属シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

參照 舊徵兵令
第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年滿二十歳ニ至リタル者ニ限リ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役兵ヲ終リタル者ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵ヲ終リタル者ニ服ス
第八條 陸軍現役兵ハ毎年所屬ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ送スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但シ海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニアラス

第十一條 年滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年陸軍現役ニ服セシム

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアルヘシ但當服役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十七條 左ニ掲ケル者ハ徵集ヲ納豫ス但シ其年補充員不足セル時又ハ職時若クハ本令ニ際シ兵員ヲ要スル時ハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第十八條 左ニ掲ケル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ納豫ス

第二項 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第十九條 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒ヘタル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ納豫ス

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フヘカラサル技術ノ職ヲ勤ムル者ハ太政官ノ決裁ニ依リテ徵集ヲ納豫スルコトアルヘシ

第二十條 補充員ハ補充員ヲ抽キタル者ヲ以テ一箇年間之ニ充ツ其期限内現役兵員タル時又ハ職時若クハ事故ニ際シ兵員ヲ要スル時其當籤ノ順序ニ從ヒ之レヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概テ現役徵集員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及第十八條第三項ノ生徒ニシテ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年滿十七歲マテ之ヲ第一豫備徵集員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七箇年間其事故ノ存セル者及ヒ第一豫備徵集員ヲ終リタル者年滿三十二歲マテハ之ヲ第二豫備徵集員トス但シ第十七條ニ當ル者以テ二豫備徵集員トナリタル後六箇年間ニ該條ニ掲ケル資格ヲ失ヒタル時ハ現役ニ徵集ス

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月マテニ年滿二十歲ニナル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日マテニ當リ但シテ月主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ツベシ若シ届出ノ後翌年四月十日マテニ異動ヲ生シタル時ハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出ツヘシ但シ二十歲未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但シ當ル異動ヲ生シタル時ハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日マテ月主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ツヘシ但シ九月十六日以後翌年四月十日以前本籍ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出ツヘシ

○陸軍刑法中改正

朕陸軍刑法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第十三願 軍事

百二十七

明治二十一年十二月十八日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖

法律第三號 (官報十二月十九日)

陸軍刑法中左ノ通改正ス

第十二條第一項第九十五條ノ下第百五條ノ四字ヲ加フ

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス

ヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若シクハ秘密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他軍機軍情

ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第百五條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩スル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○陸軍治罪法改正

朕陸軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十月十九日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖

法律第二號 (官報十二月二十日)

陸軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合團ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十

九條第百條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各師管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク

東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合團ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理學若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スル

コトヲ得

第一表

判士長	判	士	被	告	人
一名	尉官	四名	陸海軍下士		
佐官	一名	陸海軍八並ニ准士官			
佐官	一名	陸海軍中尉及ヒ同			
佐官	一名	陸海軍大尉及ヒ同			
大佐若クハ中佐	一名	陸海軍少佐及ヒ同			
大佐	一名	陸海軍中佐及ヒ同			
少將	一名	陸海軍大佐及ヒ同			
中將	一名	陸海軍少將及ヒ同			

第二表

判士長	判	士	被	告	人
一名	尉官	四名	陸海軍下士		
佐官	一名	陸海軍八並ニ准士官			
佐官	一名	陸海軍中尉及ヒ同			
大佐若クハ中佐	一名	陸海軍大尉及ヒ同			
大佐	一名	陸海軍少佐及ヒ同			
少將	一名	陸海軍中佐及ヒ同			
中將	一名	陸海軍大佐及ヒ同			

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸

軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス

師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ師團長ノ上

申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬

二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條 原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス但闕席裁判ニ對スル再審ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十八條 師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ

犯罪ヲ審判ス

第十九條 軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條 軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條 合圍ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

第二十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス任官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帯犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキ亦同シ

第二十八條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帯シ若クハ重罪輕罪トシテ審判ニ着手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條 軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 陸軍檢察

第三十條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第三十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一 憲兵ノ將校下士

二 師團副官

三 旅團副官

四 警備隊司令官

第三十二條 各所管ノ長官團ノ隊長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官

ニ其處分ヲ委ス可シ

第三十三條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告

人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令

又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第三十四條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ

第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條 陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第三十八條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ送交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條 陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタルトキ

ハ被告事件ニ證據物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違發罪ト認ムルトキハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可シ

二 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

三 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ違發罪ノ正式裁判ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ
被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ
罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐れアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐れアルトキハ直ニ拘引狀ヲ發ス可シ

第五十條 拘引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官ニ召喚狀ノ送達拘引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ理事陸軍檢察官若クハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及ヒ各控

訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 拘引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ備兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

拘引狀ハ受ク可キ被告人營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ被告人海軍艦船管內若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒備兵拘引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認メタルトキハ其地ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押収ノ處分ヲ爲スコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條 理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ
被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔
ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事
其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコト
ヲ得

第六十條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽ク
コトヲ得

一 被害者

二 被害者及ヒ被告人ノ親屬

三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受タル者

四 被害者及ヒ被告人ノ雇人

五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告
ヲ受ケタル者

六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡
ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所
ノ判決ニ附セラレタル者

七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八 十六歳未滿ノ者

九 智覺精神ノ不充分ナル者

十 瘡啞者

第六十一條 理事被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分
ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考
人ニ讀示ス可シ

理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシ
ム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條
ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキ
ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ
第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得

ルコト能ハサルトキハ参考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ
若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲ス可キコトヲ宣誓
セシム可シ

理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スル
コト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十四條 理事ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ参考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病
其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科
ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正
當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消
ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條 理事ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキ
ハ證人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可
シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辨護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關ス
ル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラ
ス

第六十六條 理事ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參
考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場
所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ
第六十八條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シ
タル罰金ヲ納完セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ
依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調查說明ノ爲メ其調查ヲ作りタル陸軍檢察官司
法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺察シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス
可シ但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ
第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管

轉スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二裁判管轄ニ非ス若クハ冤訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第七十五條 軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

トヲ得

第七十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第七十八條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一違警事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

トテ得

第八十一條 判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ由リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ開席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中開席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明ス可シ

會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官ニ於テ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其

同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ
第八十九條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九十一條 陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十二條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ
闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノマ、之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ拘引狀執行ノ例ニ依ル

若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送り逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條 被告人闕席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七章 再審

第九十五條 陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ冤訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

- 一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
- 二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
- 三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
- 四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
 六公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ
 第九十七條 陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知りタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ
 第九十八條 闕席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知り若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日内ニ非レハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス

罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ノ送達アリタル日ヨリ三日内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ
 高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ
 理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ
 被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ
 闕席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ

陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第百條 陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百一條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復讐

第百二條 復讐ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復讐願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ期滿若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四賠償ノ義務ヲ免カレタル證書

五過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百三條 長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ必要ノ調査ヲ爲シ意見書ヲ作り一切ノ書類ヲ添へ長官ニ出シ長官ハ意見書ヲ付シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條 陸軍大臣復権ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百五條 復権ノ願裁可アリタルトキハ陸軍大臣裁可狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ地方長官ヲ經テ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第百六條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ陸軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ

復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非レハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第百七條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ理事若クハ

司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

理事其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ理事ノ意見書ヲ徵シ自己ノ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百八條 陸軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

第百九條 陸軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第百十條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外ハ刑ノ執行ヲ停止セス

第百十一條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ陸軍大臣特赦狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ高等軍法會議ノ理事ノ申請ニ係ルモノハ其理事理事ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

○陸軍治罪法執行規則ヲ定メ罪犯取扱手續並書式廢止

二十一年十一月二日
陸軍省達第百四號

陸軍治罪法執行規則別冊ノ通之ヲ定メ來ル明治二十二年一月一日ヨリ施行シ罪犯取扱手續並書式ハ本年限リ之ヲ廢止ス

(別冊)

陸軍治罪法執行規則

第一條 陸軍檢察官各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令理事

檢察ノ處分ヲ爲リ陸軍大臣若クハ長官ニ具申スルトキハ左ノ書類物品ヲ添フ可シ

一 被告人調書

二 被害届

三 私訴ノ請求書

四 證據人調書

五 證據物品其他參考書類

六 鑑定書

七 檢證調書

八 所在分明ナラサル被告人ノ人相鑑

九 書類及ヒ物品目錄

被告人所屬ノ長官隊長檢察ノ處分ヲ爲シ具申テナストキハ被告人ノ前罰科_{宣告書アルハ其全文}

素行調書ヲ添フ可シ

第二條 長官審判若クハ審判判決ノ命令ヲ下ストキハ命令書ヲ訴訟書類ト共ニ理事ニ

下付ス可シ

裁判管轄ニアラサルモノ及ヒ命令ヲ下ス可カラサルモノハ其書類ヲ返還ス可シ

第三條 理事陸軍大臣若クハ長官ヨリ被告事件ノ下付アリタルトキハ錄事ヲシテ其事
件及ヒ所管隊號氏名等ヲ帖簿ニ登記セシメ審問判決ヲ爲スノ手續ヲ爲ス可シ

第四條 召喚狀ヲ發スルトキ被告人軍人ナルトキハ其所屬ノ官廳本隊若クハ被告事件
ヲ具申シタル檢察官ニ移シテ送付ノ處分ヲ求ム可シ若シ護送ヲ要スルトキハ之ヲ求
ムルコトヲ得但營外居住ノ者ニ係ルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシムルコトヲ
得

第五條 被告人所在ノ地ニ所屬官廳若クハ本隊アラサルトキハ本人ニ交付シ出廷セシム可シ
第五條 令狀執行ノ命令ヲ受ケタル者之ヲ執行シ若クハ執行スル能ハサルトキハ其旨
ヲ理事ニ報告ス可シ

第六條 召喚狀拘引狀ヲ以テ出廷セシメタル被告人ニ収禁狀ヲ發シ若クハ留置ヲ命シ
タルトキハ看守卒若クハ憲兵卒ヲ以テ監獄ニ護送セシム可シ憲兵ノ設ケナキ地ニ在
テハ衛兵ヲシテ護送セシムルコトヲ得

拘引狀ヲ以テ監獄ニ護送セシムルトキハ亦前項ノ例ニ依ル可シ

第七條 拘引狀ヲ以テ留置スル期限ハ休暇ノ日ヲ算入セサルモノトス

第八條 罰金以下ノ刑ニ該ルモノト認ムルトキト雖モ其被告人遠隔ノ地ニ在ル軍人ニ
シテ營内居住ノ者ナルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第九條 被告人ヲ収禁留置シ若クハ收禁留置ヲ取消シタルトキハ理事被告人所屬ノ官

麻若クハ本隊及ヒ監獄ニ通報ス可シ他管ノ軍人ヲ收禁留置シタルトキハ本管軍法會議ニモ之ヲ通報ス可シ

其委任以上及ヒ帶勳者ニ係ルトキハ之ヲ長官ニ具申シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ上申ス可シ但帶勳者ニ係ルトキハ勳章年金視察及ヒ停止取扱手續第八條ニ依リ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 外國公使館内ニ於テ檢證ヲ爲スコトヲ要シ若クハ令狀ヲ受クヘキ者外國公使館ニ雇ハレ若クハ外國公使館内ニ住居スル者ニ係ルトキハ理事其事實ヲ記シ其公使館ノ承諾ヲ得ンコトヲ長官ニ具申シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

陸軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタルノ下達アリタルトキハ理事其旨ヲ公使館官吏ニ告ケ檢證處分ヲ爲シ若クハ令狀ニ承諾ヲ經タル旨ヲ記載シタル書面ヲ添へ令狀執行者ヲシテ之ヲ公使館官吏ニ示シテ執行セシム可シ

第十一條 被告人ヲ責付シタルトキハ理事被告人ヲシテ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷スヘキノ證書ヲ出サシメ且ツ責付セラレタル者ヲシテ注意視察スヘキ旨ノ證書ヲ出サシム可シ

被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサルトキハ責付ヲ取消ス可シ

第十二條 證人鑑定人通事事實參考人參考ノ爲メ鑑定ヲ命スヘキ者軍人ナルトキハ其所屬ノ官廳若クハ本隊ニ呼出狀ヲ移シテ其出廷ヲ求ム可シ但營外居住ノ者ナルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシムルコトヲ得

其地ニ所屬官廳若クハ本隊アラサルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシム可シ

第十三條 判士長理事證人鑑定人等ニ罰金ヲ科スルトキハ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ宣告ス可シ

判士長宣告ヲ爲ストキハ理事之ニ立會フ可シ

呼出ニ應セサルニ因リ罰金ヲ科セラレタル者營内居住ノ者ナルトキハ理事宣告書ヲ本人所屬ノ官廳若クハ本隊ニ移シテ其送達ヲ求メ且罰金ヲ期限内納完セシムヘキ旨ヲ照會シ營外居住ノ者ナルトキハ直チニ宣告書ヲ其住所ニ送達ス可シ

判士長ノ科シタル罰金ノ宣告書ハ判士長錄事署名捺印シ理事ノ科シタル罰金ノ宣告書ハ理事錄事署名捺印ス可シ

罰金ノ宣告ヲ爲シ若クハ其宣告ヲ取消シタルトキハ第二十九條ノ例ニ從ヒ理事之ヲ本人所屬ノ官廳若クハ本隊及ヒ區戸長ニ通報ス可シ

限内罰金ヲ納完セス若クハ罰金ニ換ヘタル禁錮限内罰金ヲ納完シタルトキハ第三十一條第三十二條ノ例ニ從フ但理事ノ科シタル罰金ヲ禁錮ニ換フルトキハ理事直チニ之ヲ命ス

第十四條 理事被告事件裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲スヘキノ具申ヲ爲シ陸軍大臣若クハ長官ノ認可アリタルトキハ言渡書ヲ作り録事ト共ニ署名捺印シ法廷ニ臨ミ之ヲ被告人ニ讀示シ裁判管轄ニ非サルモノハ其事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限盡クルノ後其地ノ檢事ニ送致シ違警罪事件ナルトキハ管轄ノ憲兵隊若クハ警察署ニ送致ス可シ

被告人ノ護送ヲ要スルトキハ第六條ニ從フ可シ若シ送致ス可キ地遠隔ナルトキハ地方警察署ニ遞傳護送ヲ囑託ス可シ但便宜ニ依リ兵員ヲ以テ護送セシムルコトヲ得

第十五條 理事免訴若クハ管轄違ヒノ言渡ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ被告人所屬ノ官廳若クハ本隊及民事原告人ニ通報シ被告人収禁留置ニ係ルトキハ之ヲ監獄ニ通報ス可シ

第十六條 直チニ判決ニ付セラレタル事件ニ於テ判士長若クハ理事審問ヲ必要ト認ムルトキハ其旨ヲ命令ヲ下シタル陸軍大臣若クハ長官ニ具申スルコトヲ得

第十七條 判決ノトキニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺悟シ理事其審問ヲ爲シタルトキハ意見書ヲ出ス可シ

第十八條 軍法會議ノ判決ハ過半数ノ説ヲ以テ之ヲ決ス其説三説以上ニ分レ過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル説ヨリ順次利益ナル説ニ合算ス

賠償ノ金額ニ關シ三説以上ニ分レ其説過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算ス

第十九條 發説ノ順序ハ下級ノ者ヨリ其説ヲ述ヘ順次上級ニ遞ホル可シ若シ同級ノ者二人以上ナルトキハ其同級中新任ノ者始メニ其説ヲ述フ可シ

第二十條 被告人證人事實參考人ノ陳述前ニ陳述シタル所ト異ナルトキハ錄事其要領ヲ記録シ判士長及ヒ理事ト共ニ署名捺印シ訴訟書類ニ添置ク可シ

第二十一條 高等軍法會議ニ於テ再審ニ就キ直チニ判決ニ付スルノ命令ヲ受ケタルトキ事實明瞭ニシテ更ニ被告人證人ノ訊問ヲ要セサルモノト爲ストキハ其訊問ヲ爲サスシテ判決ヲ爲スコトヲ得但關席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

其宣告ハ宣告書ヲ被告人所在ノ地ノ長官ニ移シテ其所屬軍法會議ニ於テ之ヲ爲サシムルモノトス

違警罪ノ正式裁判ニ於テモ亦本條ノ例ニ從フコトヲ得

第二十二條 再審ノ裁判アリタルニ依リ更ニ刑ヲ執行スヘキトキハ其刑ヨリ先キニ受ケタル刑ヲ扣除スルモノトス

第二十三條 損害陸軍官署若クハ軍人ニ係ルトキハ理事被害者ニ返還賠償ノ請求ハ本案終結前ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ通知ス可シ

第二十四條 裁判宣告ノ時傍聽人ノ席ハ左ノ三區ニ別ツ

- 一勅任官
- 二委任官
- 三判任官以下

第二十五條 無罪免訴若クハ罰金科料ノ宣告アリタルトキハ理事直チニ被告人ヲ放免ス可シ

重罪ノ刑及ヒ禁錮拘留並ニ懲治場ニ留置スルノ宣告アリタルトキハ被告人ヲ監獄ニ交付ス可シ

管轄違ノ宣告アリタルトキハ其事件ヲ管轄軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所ト管轄違ノ宣告アリタルトキハ上告期限盡クルノ後其事件ヲ其地ノ檢事ニ送致ス可シ

前數項ノ處分ヲ爲ストキハ裁判宣告書ヲ添ヘ收禁ニ係ラサル被告人ヲ監獄ニ交付シ其他陸軍檢察官若クハ檢事ニ宣告人ヲ交付スルトキハ第六條第十四條末項ニ從ヒ護送セシメ收禁留置ニ係ル軍告人ヲ放免シ及ヒ他方ニ移ストキハ其旨ヲ監獄ニ通報ス可シ

第二十六條 徒流懲役禁獄ノ刑ニ處スル者陸海軍刑法劄官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法禁錮ノ刑ニ處スル將校軍屬禁錮ノ刑ニ處スル常人並ニ懲治場ニ留置スル者ノ交付ヲ受ケタルトキハ監獄長裁判宣告書ヲ添ヘ其地方監獄ニ送付ス可シ若シ其獄監遠

隔ナルトキハ第十四條末項ノ例ニ從フ可シ

第二十七條 刑ノ宣告ヲ受ケタル者帶勳者ニ係ルトキハ理事之ヲ長官ニ具申ス可シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

長官ハ勳章年企視奪停止取扱手續第二條第七條ニ從ヒ處分ス可シ

第二十八條 私訴ノ裁判宣告ヲ爲ストキ被害者官署ニ係リ若クハ軍人ニシテ其地ニ在ラサルトキハ其宣告書ヲ被害者ニ送致ス可シ

第二十九條 有罪無罪ヲ問ハス裁判宣告アリタルトキハ理事宣告書ヲ添ヘ被告人所屬ノ官廳若クハ本隊ニ通報シ死刑ノ執行アリタルトキハ榜示公告スヘキコトヲ郡區長ニ照會ス可シ

關席ノマ、宣告シタルモノニ係ルトキハ其宣告書ヲ被告人ノ現住所ニ送達シ被告人營内居住ノ者ニシテ逃亡中ナルトキハ本管若クハ寄留ノ住所ニ送達ス可シ

刑ノ宣告及再審ノ裁判ニ於テ無罪免訴ノ宣告アリタルトキハ其旨ヲ被告人本籍ノ區戶長ニ通報シ他管ノ軍人ニ係ルトキハ本管軍法會議ニモ通報ス可シ

第三十條 罰金科料ノ宣告アリタルトキハ理事期限内ニ之ヲ納完セシム可シ其被告人營内居住ノ者ナルトキハ所屬隊長ニ照會シテ納完セシム其監獄ニ在ルトキハ監獄長ニ照會シ監獄長之ヲ隊長ニ照會ス可シ

第三十一條 罰金科料ヲ限内納完セサルトキハ理事禁錮若クハ拘留ニ換ヘンコトヲ判士長ニ求メ言渡書ヲ作り録事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ言渡シ監獄ニ付ス可シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ言渡書ヲ被告人所在ノ地ノ軍法會議ノ理事ニ送致シ其處分ヲ求ム可シ

被告人所在ノ地ニ軍法會議ナキトキハ言渡書ヲ被告人所属ノ長官隊長ニ送致シ言渡及執行ノ處分ヲ求ム可シ長官隊長ハ營倉ニ於テ執行ス可シ

禁錮拘留限内罰金科料ヲ納完シタルトキハ禁錮拘留ノ言渡ヲ爲シタル者放免ノ處分ヲ爲ス可シ

長官隊長及ヒ言渡書ノ送達ヲ受ケタル理事ハ納完シタル金圓ヲ添ヘ之ヲ原軍法會議ノ理事ニ通報ス可シ

原軍法會議ノ理事自ラ放免ノ處分ヲ爲シ若クハ放免シタルノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ判士長ニ通報ス可シ

第三十二條 理事前條ニ依リ被告人ヲ監獄ニ交付シ若クハ放免ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ長官隊長監獄長ニ通報ス可シ

被告人所在ノ地ノ理事前項ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三十三條 闕席裁判ヲ受ケタル者其犯罪ヲ自首シ若クハ捕ニ就キ其裁判アリタルコトヲ知ラサルトキハ其自首ヲ受ケ若クハ逮捕シタル官署ニ於テ闕席裁判アリタル旨

及ヒ法律ニ定ムル期限内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ告ク可シ其申訴ヲ爲シタル時ハ裁判宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ申訴狀ニ送致ス可シ

第三十四條 闕席裁判ニ依リ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者自首若クハ捕ニ就クトキハ其宣告ヲ爲シタル軍法會議所在ノ地ノ監獄長ニ交付シ監獄長ハ之ヲ理事ニ通報ス可シ

理事前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ被告人所属ノ官廳若クハ本隊ニ通報ス可シ再審ノ申訴ヲ爲サスシテ其期限盡キタルトキハ監獄長ニ宣告書ヲ移シ刑ノ執行ヲ爲サシム可シ

第三十五條 闕席裁判ニ係ルモノヲ除クノ外再審ニ於テ無罪免訴及ヒ原裁判ヨリ輕キ刑ノ宣告アリタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ榜示公告ス可シ

第三十六條 錄事ハ宣告ノ年月日及ヒ刑名刑期等ヲ遺漏ナク簿冊ニ登記ス可シ

第三十七條 死刑執行ノ命令アリタルトキハ理事豫メ其期日ヲ定メ之ヲ長官ニ具申ス可シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

長官ハ醫官憲兵並ニ隊兵出場ノ處分ヲ爲シ且監獄長ヲシテ死刑執行ノ準備ヲ爲サシム可シ

第三十八條 死刑ヲ執行スルトキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ理事監獄長醫官錄事之ニ會同シ監獄長死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後小銃ヲ以テ之ヲ射殺ス其護送及ヒ

執行ハ本人所属ノ隊兵一小隊ヲ以テ之ニ充テ隊外若クハ其地ニ所属本隊アラサル者ニ係ルトキハ歩兵一小隊ヲ以テ之ニ充ツ

第三十九條 死刑ヲ行フトキ刑場ノ警戒ハ憲兵ヲシテ之ヲ爲サシメ憲兵ノ設ケナキ地ニ在テハ備兵ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第四十條 死刑執行ノ始末書ハ録事之ヲ作リ理事監獄長醫官隊事署名捺印ス可シ

第四十一條 死刑ノ執行終リタルトキハ監獄長看守長書記ヲシテ埋葬ノ處分ヲ爲サシム可シ

遺骸ノ下付ヲ請フモノアルトキハ看守長書記ヲシテ其下付ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四十二條 長官ハ事變ニ際シ若クハ戰時ニ在テハ此條例ヲ變更省略スルコトヲ得

第四十三條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ言波ニ對シ上告スル者アルトキハ理事辨明書ヲ作り訴訟文書ニ添ヘ長官ヲ經由シ高等軍法會議ニ在テハ陸軍大臣ヲ經由シ之ヲ大審院ニ送致ス可シ

第四十四條 理事特赦狀ノ下付ヲ受ケ其傳達ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ本人所属ノ官廳本隊並ニ本籍ノ區戸長ニ通知ス可シ

○陸軍省法官部官制

朕陸軍省法官部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十一月十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十七號 (官報十一月十七日)

陸軍省法官部官制

- 第一條 陸軍省中ニ法官部ヲ置ク
- 第二條 法官部ニ左ノ職員ヲ置ク
- | | | | |
|----|-----|----|----|
| 部長 | 一人 | 理事 | 勅任 |
| 部員 | 三人 | 理事 | 奏任 |
| 書記 | 若干人 | 錄事 | |
- 第三條 部長ハ部中ノ事務ヲ總理シ各法官部及旅團出仕ノ理事錄事ヲ管轄ス
- 第四條 法官部ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス
- 第五條 法官部ニ於テハ左ニ記載スル事務ヲ掌ル
- 一 刑法治罪法其他法律ニ關スル事項
 - 二 懲罰令監獄則及監獄ニ關スル事項
 - 三 陸軍軍法會議ノ裁判及其事務ノ監査ニ關スル事項
 - 四 各法官部ノ諸員及其名簿調査ニ關スル事項
 - 五 軍法會議及普通裁判所ノ處分ヲ受ケタル者ニ關スル事項

○陸軍處務細則改正

明治二十一年十一月十五日
陸軍省總第三百九號

陸軍省處務細則別冊ノ通改正ス

(別紙)

陸軍省處務細則

本省ノ職制權限及ヒ事務ノ分掌ハ官制ニ揭示ノ如シト雖トモ其管理連絡ノ紀綱ヲ明ニセシメ事務取扱ノ順序ヲ左ニ開列ス

第一項 陸軍省副官ハ大臣官房ノ事務ヲ管シ申奏及ヒ閣議往復其他秘密ノ文書ヲ掌リ

大臣ノ意ヲ承ケ其草案ヲ作り或ハ大臣ヨリ上裁ノ文書ヲ取扱ヒ其他省内各局ニ属セ

サル事務ヲ處理ス其秘書官ハ大臣ニ專屬シテ事務ニ服シ又房内ノ事務ヲ助ク

第二項 高級副官ハ總務局ニ服務シ局長ヲ補佐シテ局内ノ事務ヲ整理シ陸軍内外共輕

易ナル往復文書ニハ都テ其名ヲ署シテ發送スヘシ又本省ヘ到來スル一切ノ文書ハ

ハ除クテ查閱區處シ局長不在ノトキハ其事務ヲ代理スヘシ若シ高級副官一時ノ不在

等ニ方リ總務局内ノ事務ハ同局第一課長之ヲ處辨スルモノトス

第三項 副官タル副官ハ次官ニ專屬シ又總務局ノ事務ニ服ス

第四項 騎兵砲兵工兵會計醫務ノ局長及ヒ總務局各課長ハ大臣及ヒ總務局長ノ命ヲ受

ケ其主務ヲ掌理シ各課長又ハ課員ヲ指揮監督シ各主任ノ事務ヲ處理セシメ其管掌事

務ニ就テハ總務局長ニ對シ舉否ノ責ニ任スヘシ

第五項 省中各局ノ課長ハ局長ノ命ヲ受ケ主任ノ事務ヲ擔任シ課員以下ヲ指揮シ各其

事ニ服セシメ調査起案勘合點檢等首トシテ課務ノ整理ヲ謀リ其分擔ノ事務ニ於テハ

舉否ノ責ニ任スヘシ

第六項 課員ハ課長ノ指揮ヲ受ケ僚屬ヲ監視シ各其事ニ服行セシメ課内ノ事務整理ニ注意スヘシ

第七項 僚屬ハ上官ノ命ヲ奉シ各其事ヲ分掌スヘシ

第八項 每日午前十時總務局長ハ騎兵砲兵工兵會計醫務ノ局長會計醫務ノ兩局ハ局長不在ナルハ次長及ヒ高

級副官總務局各課長ヲ會同シテ事務ヲ商議ス各局長總務局各課長ハ主任ノ事務ニ就

キ審議ヲ要スヘキモノアルトキハ此會議ニ提出スヘシ

第九項 右會議畢レハ騎兵砲兵工兵局長ハ各課長會計醫務局長ハ次長及ヒ課長ヲ會シ

總務局各課長ハ課員ニ令シ各其區處スヘキ主旨ヲ陳說シ若クハ調査スヘキ事件ヲ指

定シ以テ施行ノ順序ヲ立ツヘシ

第十項 總務局第一課ハ專ラ文書ノ出入ヲ司トリ總テ本省ヘ到來シタル文書ノ親展書

ヲ除クノ外ハ開封シテ之ヲ高級副官ニ呈ス高級副官ハ査閱ノ上大臣ノ處決ヲ要スル

モノハ直ニ進閱ノ手續ヲナシ其事項ノ各局及總務局各課ノ審議ニ付スヘシト認定ス

ルモノハ其關係ノ局課ヲ指定スル爲メ其局課名ノ印ヲ押シテ送達ス若シ數局課ニ連

帶スルモノハ事項ノ主務タルヲ指定スル爲メ其主務ノ局課名ノ白字ノ印ヲ押スモノ

トス

事ノ定例ニ係リ或ハ小事件ニシテ大臣ノ處決ヲ要セス總務局長ニ委任セラレアルモ

ノハ本紙欄外ニ局長ノ印ヲ押シ又局長ヨリ高級副官ニ委任セラレアルモノハ目カラ

高級副官ノ印ヲ押シ然ル後關係ノ局課ヲ指定ス

以上ノ文書ハ直ニ大臣へ進呈スルモノヲ除クノ外送達ニ供スル爲メ悉ク總務局第一課ニ付スヘシ

第十一項 總務局一課ニ於テハ文書ノ順序ヲ逐ヒ受領日記ニ其事件ノ大要ヲ録シ一貫セル番號ヲ記シ又文書ニハ到來ノ日附ト受領日記ノ番號トヲ記シ各其指示スル押印ニ照シ直ニ其局(課)連帶ノ書面ハ主務ノ局(課)ニ送附スヘシ

但文書ノ正副ニ通アル者ハ其正書ニ同シク局名印ヲ寫シ纏メテ其結了ニ至ルマテ収藏シ置クヘシ

第十二項 人事ニ係ル事項ノ内准士官以上任免補職轉職免職留任諸候補名簿拔擢名簿等ハ總務局人事課ノ主務タルヲ以テ右ニ係ル稟申大臣次官へ手ツカラ進呈スルモノハ別格若クハ照會等ハ封筒ノ表ニ(親展)並(人第何號)ト朱書シテ同課へ送達スヘシ但人事課長へ手ツカラ授付スルトキハ次項ノ例ニ準ス

第十三項 凡テ人事ニ係ル書面ハ彼此受授ノ際必ス副官局長局次長課長若クハ課員ノ内手ツカラ之ヲ爲スカ又ハ秘封シテ送達スヘキモノトス

第十四項 各局及總務局各課ノ起草ニ係リ其事柄法令若クハ諸達トシテ發布スヘキ者ハ勿論其他ノ事件ト雖モ下問ノ書面ニ審議意見ヲ上陳スルノ外ハ都テ通常界紙ニ認メ宛名ニ及ハス年月日ノ下ニ其主任局(課)長ノ職名ヲ書シ職印ヲ押スヘシ某局(課)ニルモノト認ムルトキハ豫メ協議ノ上進呈スヘシ其進達方ハ送達簿ニ添ヘテ總務局第一課へ送付事柄ニ依リ機密ヲ要スルモノハ高級副官へ手ツカラ授付スヘシスルモノトス

第十五項 會議席ニ於テ受領シタルト別ニ送付ヲ受ケタルトノ別ナク都テ下問ノ書面

ニ審議意見ヲ上陳スルハ之ヲ決議用紙ニ認メ指定ノ局課連帶アレハ連印ノ上進呈スヘシ其進達手續ハ前項ニ同シ

第十六項 各局及總務局各課ヨリ進呈シタル書面ハ指令ヲ要スヘキモノト雖モ別段指令ヲ爲サス決裁濟ノ上ハ總務局第一課ニ於テ其本書欄外ニ(決裁濟)ノ印並關係局(課)ノ印ヲ押シテ回送ス其局(課)ニ於テハ了知ヲ證スル爲メニ印下へ局(課)長若クハ課員ノ内押印シテ速ニ返送スヘシ但其書面ノ結局一般へ公達若クハ通課トナリシモノハ其公達通牒ニテ了知スヘキヲ以テ別ニ本文ノ手續ヲ爲サス

第十七項 凡ソ到來ノ文書ニ就キ通常ノ事柄ハ高級副官其機急ヲ置リ左ノ三種ニ分テ區處スヘシ

其一 總務局長へ委任ノ者

其二 定例ニ係ル者

其三 至急ヲ要スル者

第十八項 其二文書ハ前日其局ニ送付セシ後受領シタル者ヲ留送付シ其三文書ハ受領スル毎ニ直ニ區處ス

第十九項 各局及總務局各課ニ於テ文書ヲ受領スレハ日録ニ其全文又ハ要領ヲ事ノ輕重ニ從ヒ取捨シテ簡短ニ記注シ日録ノ番號ヲ本書ノ受領番號ノ下ニ記注シタル上審議上答スヘキ者ハ審案書ヲ付シテ進呈シ只一覽ニ止ルモノハ其閱覽ヲ證スル爲メ本書ニ局(課)長若クハ主任ノ者押印シテ總務局第一課へ返付スヘシ

第二十項 下問ノ書面ニシテ各局及總務局内敷課連帶ノ書類ハ主務ノ局(課)ニ於テ審案書ヲ作り他ノ局(課)へ廻送スヘシ若シ他ノ局(課)ニ於テ意見ヲ異ニスルトキハ局(課)長若クハ課員ノ内躬カラ面議スルカ又ハ會議ヲ開ク等時々ノ便宜ニ從ヒ速ニ施行ニ至ル様注意スヘシ

第二十一項 各局及ヒ總務局各課連帶書類ノ滯留スルト否トハ特ニ其主務局(課)ノ責任タレハ主務局(課)ニ在テハ每週二回^{水曜日未濟ノ書類ヲ取調其餘議ヲ要スル日時ヲ經過セシモ未タ連帶ノ局(課)ヨリ報告ナキ時ハ其局(課)ニ就テ理由ヲ問ヒ速ヒ方ヲ促スヘシ}

第二十二項 各局及ヒ總務局各課ニ於テ下問ノ文書ニ審案ヲ具シ進呈スルトキハ成ル可ク速カナルヲ要ス若シ事柄ノ難易輕重ニ從ヒ幾日ヲ經過セサレハ整頓シ難キモノト雖モ概子左ノ日期内ニハ必ス完結スヘシ
至急文書 三日内^{即決ヲ要スルモノハ此限ニアラス}
至急ニ非ラサル文書 七日内

但此日期ハ總務局受領ノ日附ヨリ其局意見書進呈ノ日迄ヲ算ス
第二十三項 總務局第一課ニ於テハ各局及ヒ本局各課ニ送付シタル文書ノ日限ヲ計算シ前項限内ニ完結セサルモノアルトキハ稽檢目錄ヲ發ス各局(課)ニ於テ其延滞スル理由ヲ右目錄書ニ附箋シテ返付シ來レハ總務局第一課長點檢ノ上之ヲ高級副官ニ呈スヘシ

第二十四項 陸軍省ノ日記ハ總務局第一課^{人事係ルニ之ヲ管シ一切ノ公文書ニ就キ其後來ノ考據引證トナルヘキ要件ヲ成ル可ク簡短ニ記注シ之ニ屬スル審案書モ共ニ綴リ置ク者トス其他ノ各局ニハ日記ノ簿冊ヲ備フルヲ許サス簡略ナル日録又ハ摘要等適宜ニ便法ヲ設ケ極メテ記注ノ煩冗ヲ省クヘシ若シ既往ノ證蹟ヲ要スル時ハ總務局第一課若クハ人事課ニ就テ陸軍省日記ヲ覽ルヘシ}

第二十五項 條例規則等ニ付事務取扱上疑義質問ニ係ル輕易ノ件ハ總務局各主任ノ課長ヨリ直ニ應答説明ヲナスヘシ

第二十六項 凡ソ公文ノ原書及ヒ審案書ニ大臣若クハ次官ノ檢印未濟ナル者ハ特命アルモノ、外ハ淨書送達スヘカラス

第二十七項 右ニ就キ總務局第一課長ハ其責ニ任シ檢印濟タルヤ否ヲ綿密ニ點檢シ紙端ニ(閱)ノ字ノ印ヲ押シタル上淨寫スヘシ

第二十八項 總テ送達スヘキ文書ハ總務局第一課ニ於テ淨書記注ノ上僚屬二人之ヲ校合シ差謬ナキ證トシテ共ニ紙端ニ小印ヲ押シ課長ノ檢印ヲ受ケテ後送達日記ニ事件ノ大要ヲ錄シ一貫ノ番號ヲ記注シ尙ホ本書ニ送達日記ノ番號ヲ付シテ送達スヘシ人事ニ係ル件人事課ニ於テ取扱フモ亦同シ

第二十九項 總テ決裁濟達若クハ通牒等ニ添フヘキ書類表面圖面等ハ其發送ニ要スヘキ數ヲ其主務ノ局(課)ニ於テ調製スヘシ尤印刷ニ付スヘキモノハ此限リニ非ス
第三十項 諸官人ハ定時限アリト雖トモ特ニ授リタル事件アルカ若クハ當日ノ事務結

丁ニ至ラサル内ハ夜間迄モ服務シテ整頓ニ至ラシムヘシ之カ爲メ進帶スル諸官人モ亦同シ

第三十一項 大臣及ヒ總務局長參省ノ時ハ官房ヨリ號牌ヲ配リテ各局ヘ報シ其退省ノ時ハ號牌ヲ除キ以テ其參歇ヲ瞭知セシム

第三十二項 記室ハ分テ新舊二庫トス其新庫ニハ十年以内ノ書類ヲ藏シ年々十一年目ニ當ル書笈ハ總務局第一課長點檢ノ上舊庫ニ移スヘシ

第三十三項 記室ニ藏メタル書類中參照ノ爲メ必用ナル時ハ總務局第一課記室主管ノ僚屬ニ就テ帳簿ニ其借用書目期限及月日官姓名ヲ記注押印ノ上受領スヘシ

第三十四項 記室書類索檢ニ便ナル爲メ簿書及圖書目錄ヲ調製シ收藏書類受領ノ時々之ニ登記スルモノトス

第三十五項 各局課員以下二八ツ、順番ニ宿直スルヲ例トス若シ便宜ニ依リ之ヲ改ムル時ハ別段總務局長ヨリ達スヘシ

師團司令部本部服務規則

明治二十一年十一月十六日
陸軍省達第二百十二號

(別冊)

師團司令部本部服務規則

第一條 師團司令部本部ノ將校ハ師團長ニ隸シ各定ムル所ノ部事ヲ整理ス

第二條 參謀長ハ師團長ノ機務ニ參畫シ直接ニ之ヲ輔佐シ其命令ノ普及並之カ實施ヲ

督視スルヲ以テ任トス

第三條 參謀長ハ司令部一切ノ事務ヲ管知シ其整否ニ就テハ師團長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第四條 參謀長ハ平戰兩時事務ノ變遷ヲ顧慮シ司令部本部ノ事務細則ヲ規定シ師團長ノ承認ヲ受クルモノトス

第五條 參謀長ハ其師管内外ヲ問ハス各團隊各部及諸官衙ニ對シ其名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第六條 參謀長ハ日々諸向ヨリ到達ノ文書ヲ點檢シ其事類ヲ分チ主務官ニ配當シ其先規定例アルモノハ直チニ事ニ從ハシム否ラサルモノハ處理ノ考案ヲ立テシメ之ヲ師團長ニ上申ス但其輕易ノ事項ハ躬ヲ取捨決行シテ後之ヲ報告スルヲ得

第七條 參謀長ハ陸軍省參謀本部及監軍部主務ノ事ニ就キ其副官各局長(陸軍省總務局ニ在テハ各課長)及參謀長ト相通報シ脈絡ヲシテ間斷ナカラシムルモノトス

第八條 參謀ハ概子左ノ事項ニ係ル事務ヲ分掌ス
其一 師團出戰整備及作戰計畫就中師管内ノ防禦

其二 軍隊ノ練成就中機動演習

其三 地理、政誌、運輸、交通

第九條 參謀ハ各自分掌ノ事務ニ就テ其整理ノ責ニ任ス又之ニ係ル文書ノ草案ハ自ラ之ヲ作リ師團長若クハ參謀長ノ認可ヲ受ケ後子之ヲ副官ニ移ス

第十條

副官ハ司令部一切ノ庶務ニ任シ概子左ノ事項ニ係ル事務ヲ分掌ス

其一 日令、報告、暗號、衛戍、軍隊内務

其二 文書ノ往復並圖書

其三 現役將校下士卒ノ人事、敘勳、恩給

其四 徵兵、豫備役及後備役驅員兵員、軍馬、兵器、彈藥、裝具

第十一條 高級ノ副官ハ副官部ノ庶務ヲ總理シ其事務ノ整否ハ躬ヲ其責ニ任ス他ノ副官モ亦各自分掌ノ事務ニ就テ整理ノ責ニ任スルモノトス但其處理ノ件ハ豫メ高級副官ノ査閲ヲ受クヘシ

第十二條 副官ハ司令部内一切ノ取締ニ任シ又本部ノ會計經理ヲ管知ス

第十三條 參謀及副官ノ主務ハ前掲ノ如ク之ヲ區別スト唯トモ彼是相裨補シ事務ノ結果ヲシテ一致セシムルモノトス

第十四條 參謀副官ノ内一名及下士一名ヲシテ日々當直セシメ退廳後及休暇日等臨時ノ要務ヲ處理シ及一般ノ取締ニ任ス

但シ將校ノ當直ハ夜間在廳スルト在宅スルハ目下ノ形勢ニ應シ師團長ノ指示ニ從フモノトス

第十五條 戰時ニ於ケル本部官僚職務權限ハ本規則ノ外尙ホ陣中軌典ノ定ムル所ニ因ルモノトス

○師團戰時整備假規則

二十一年十二月二十八日
陸軍省達第二百四十七號

師團戰時整備假規則別冊ノ通定ム

(別冊)

師團戰時整備假規則

第一章 總則

各師團ハ戰時ニ方リ左ノ整備ヲ爲ス

第一 野戰師團

第二 野戰豫備隊

第三 留守官衙及諸隊

第二章 野戰師團

第一款 野戰師團ハ左ノ諸部團隊ヲ以テ編制ス

第一 師團司令部及屬部

第二 歩兵二旅團 各旅團ハ本部並二聯隊各聯隊ハ本部並三大隊各大隊ハ本部並四中隊

第三 騎兵一大隊 本部並三中隊

第四 砲兵一聯隊 本部並三大隊各大隊ハ本部並二中隊

第五 工兵一大隊 本部並二中隊及大小架橋縱列各一箇

第六 彈藥縱列一大隊 本部並五縱列(歩兵彈藥二砲兵彈藥三)本隊ノ番號ハ師團ノ番號ニ同シ而シテ歩兵彈藥第一第二縱列砲兵彈藥第一第二第三縱列ト稱ス

- 第七 輜重兵一大隊 本部並糧食五縱列(第一ヨリ第五迄ノ番號ヲ附ス)及馬廠
- 第八 衛生部 衛生隊一隊(本部並擔架二中隊師團ノ番號ヲ冠シ第何衛生隊ト稱ス)及野戰病院六箇(師團ノ稱號ヲ冠シ第一ヨリ第六迄ノ番號ヲ附ス例ヘハ第一師團第二野戰病院ト稱スルカ如シ)
- 第九 野戰電信隊一隊 本隊ノ番號ハ師團ノ番號ニ同シ
- 第二款 野戰師團中新ニ編成スルモノ左ノ如シ
- 第一 師團司令部屬部

本屬部ノ内野戰郵便部ハ地方ノ郵便官吏ヲ以テ編成スルモノニシテ師團司令部所在地ノ郵便官吏其事ヲ掌ル但配達卒ハ豫備役或ハ後備役ノ乘馬兵ヲ以テ之ニ充ツ

第二 大小架橋縱列

大架橋縱列ノ材料ハ長サ九十六米突ノ橋ヲ架スルニ足リ小架橋縱列ノ材料ハ長サ三十六米突ノ橋ヲ架スルニ足ルモノトス

工兵大隊長ハ輜重兵大隊長ト協議シ該縱列ノ編成ニ任ス

第三 彈藥縱列大隊

本隊ハ豫備役及後備役ノ砲兵ヲ以テ編成スルモノニシテ砲兵隊長該編成ニ任ス步兵彈藥ハ一縱列ニ付五十萬二千五百發ヲ有ス但其二縱列ヲ合シ師團正面ノ一統ニ付凡百發宛トス

第四

糧食五縱列及馬廠

砲兵彈藥ハ一縱列ニ付榴彈七百二十八發、榴霰彈八百四十發、霰彈百六十八發ヲ有ス但其一縱列ヲ以テ砲兵二中隊ノ全彈藥補充ニ充ルヲ得ヘキモノニシテ一門ニ付凡百四十發宛トス

右歩砲兵彈藥縱列ハ各二分スルヲ得可シ

第五

衛生部(衛生隊一隊及野戰病院六箇)

師團軍醫長ハ輜重兵大隊長ト協力シテ該衛生部ノ編成ニ任ス
衛生隊長ハ輜重兵科、擔架中隊長ハ步兵科ノ士官ヲ以テ之ニ充ツ
擔架中隊ノ下士兵卒ハ豫備役及後備役ニ在ル步兵ニシテ擔架術卒業證書ヲ所持スル者ヲ以テ之ヲ編成ス

衛生隊及病院ハ各二分スルヲ得可シ而シテ各病院ハ患者二百八ヲ收容シ得ルモノトス

第六

野戰電信隊

本隊ハ工兵科下士兵卒ニシテ電信建築術及通信技術卒業證書ヲ所持スル者ヲ以テ之ヲ編成ス但技手ハ普通電信技手ヲ交ヘ用フ

其人員及材料ハ二建築部及四通信所ニ分ツテ得而シテ電線ノ全長ハ三十吉
米突ニシテ道程二十四吉米突ヲ連絡スルニ足ルモノトス

王兵大隊長ハ輜重兵大隊長ト協議シ該編成ニ任ス

第三款

前款諸隊諸部ノ用法及目的概子左ノ如シ

第一

總テ諸縱列ハ二梯隊ニ分ツ其一ハ通常輜重兵大隊長之ヲ指揮シ他ノ一ハ彈藥
縱列大隊長之ヲ指揮スルモノトス

第二

但諸縱列ヲ梯隊ニ區分スルトキハ輜重第一第二梯隊ト稱ス

第三

大架橋縱列ハ通常輜重第一梯隊中ニ在リ必要ニ當リ戰列隊ニ屬セシムルモノ
トス小架橋縱列ハ通常師團本隊ニ在リ必要ニ當リ前衛ノ後尾ニ屬セシムルモノ
トス

第四

彈藥五縱列ハ戰鬪後戰列隊ノ彈藥補充ヲナシ又其戰鬪長キニ涉レハ戰鬪中補
充スルコトアリ師團行進スルトキハ其小部分ハ輜重第一梯隊中ニ其大部分ハ
同第二梯隊中ニ在リ

第五

糧食五縱列ハ其地ニ就キ糧秣ヲ得ル能ハサルトキノ豫備ニシテ通常其二縱列
ハ輜重第一梯隊ニ其三縱列ハ同第二梯隊ニ屬ス

第六

但戰列隊ノ糧秣ヲ補充シ倉庫ヨリ糧秣ノ補充ヲ受ル爲メ其位置ヲ變スルコ
トアルヘシ

第七

馬廠ハ乘馬隊ニ屬セサル將校及相當官乘馬ノ補充ヲ爲シ又其輕症病馬及傷馬

第八

ヲ收容シ且ツ之ヲ療養スル所ニシテ輜重第二梯隊ニ屬ス

第九

衛生隊ハ戰鬪ニ當リ一若クハ二箇ノ紉帶所ヲ開キ行進ニ當リテハ通常其半部
ハ前衛ノ後尾ニ他ノ半部ハ本隊ノ後尾ニ在ルモノトス

第十

野戰病院ハ戰鬪地直接背後ニ在テ紉帶所ニ於テ治療シタル傷者ヲ收容シテ其
治療ヲ施シ後方ニ運搬スルモノニシテ行軍中ハ通常其三箇ハ輜重第一梯隊中
ニ他ノ三箇ハ同第二梯隊中ニ在リ若シ戰鬪ノ企アルトキハ其若干若クハ全箇
ヲシテ師團ノ後尾ニ來ラシムルモノトス

第十一

野戰電信隊ハ各師團ニ於テ編成スト雖トモ其師團獨立シテ作戰スルトキノミ
之ニ屬シ軍ヲ編制スルトキハ軍司令部ノ指揮ニ屬ス

第十二

但シ師團ニ屬スルトキハ通常輜重第二梯隊中ニ在リ

第十三

將校並相當官ノ使用ニ供スル兵卒ハ之ヲ分ツテ二種トス

其一

乘馬將校ノ馬卒

其二

馬卒ハ乘馬ノ飼養副馬ノ誘導ニ任シ併テ將校ノ自用ヲ辨スルモノニシテ豫
備役及後備役ノ乘馬兵ヨリ取ル此馬卒ハ戰列外ノモノニシテ通常各所屬部
隊ノ後尾ニ跟隨ス

其三

徒步將校ノ從卒

其四

從卒ハ專ラ將校並相當官ノ自用ヲ辨スルモノニシテ主トシテ歩兵卒ヨリ取
ル而シテ又將校ノ職務ニ應シ更ニ之ヲ二類ニ分ツ